

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

平成27年8月

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会

目 次

1	評価対象法人の概要	1
2	評価の実施根拠法	1
3	評価の対象	1
4	評価の趣旨及び評価者	2
5	評価方法の概要	2
	（1）評価基準	2
	（2）評価の手法	2
6	評価結果	3
	（1）総合的な評定	3
	（2）年度計画の各項目ごとの評定	4
	1. 診療計画及び診療に関する重点事項	4
	2. 人員配置の弾力的運用	5
	3. 施設整備及び医療機器等の整備計画	5
	4. 患者数の見込みと収支計画	6
	5. その他業務運営に関する事項	7
	（3）地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等	7
	地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成26年度業務実績に関する評価基準	8
	参考資料 平成26年度実績に関する評価（項目別評価シート）	9

1 評価対象法人の概要

- | | |
|-------------|--|
| (1) 法人名等 | 名 称 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構
代 表 理事長 栗谷 義樹
住 所 山形県酒田市あきほ町30番地 |
| (2) 設立年月日 | 平成20年4月1日 |
| (3) 設立団体 | 山形県及び酒田市 |
| (4) 資本金の額 | 12,381,263,678円(平成26年9月25日変更登記時) |
| (5) 中期目標の期間 | 平成24年度から平成27年度(4年間) |
| (6) 目的及び業務 | |

ア 目的

地方独立行政法人法に基づき、医療の提供、医療に関する調査及び研究等を行うことにより、庄内地域等の医療政策として求められる高度専門医療を提供し、及び当該地域における医療水準の向上を図り、もって住民の健康の維持及び増進に寄与することを目的とする。

イ 業務

- ① 医療の提供に関すること。
- ② 医療に関する調査及び研究に関すること。
- ③ 医療に関する技術者の研修に関すること。
- ④ 医療に関する地域への支援に関すること。
- ⑤ 災害時における医療救護に関すること。
- ⑥ 前各号に掲げる業務に附帯する業務に関すること。

2 評価の実施根拠法

地方独立行政法人法(平成15年法律第118号)第28条

3 評価の対象

平成26年度における地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構の年度計画に対する実績の状況

※年度計画・・・中期計画に基づき、当該年度における業務運営に関する計画を定めたもの

4 評価の趣旨及び評価者

(1) 評価の趣旨

地方独立行政法人法の規定に基づき、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構（以下「病院機構」という。）が、庄内地域における中核病院である日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センターの運営を行うにあたり、住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上、業務運営の効率化等について自主的、継続的な見直し及び改善を促すことを目的に、地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構評価委員会（以下「評価委員会」という。）が業務の実績評価を行う。

(2) 評価委員会

委員名	氏名	役職等
委員長	嘉山 孝正	山形大学医学部参与 山形大学医学部先進がん医学講座 特任教授
副委員長	大内 憲明	東北大学大学院医学系研究科外科病態学講座 腫瘍外科学分野教授 東北大学リサーチプロフェッサー
委員	堀 千秋	酒田市地域包括支援センターほくぶセンター長
委員	佐藤 正一	日本公認会計士協会山形県会
委員	吉川 哲央	酒田商工会議所副会頭 (東北東ソー化学株式会社 代表取締役社長)
委員	本間 清和 (当日欠席)	山形県医師会（前酒田地区医師会長）

(委員名順：順不同)

5 評価方法の概要

(1) 評価基準

病院機構平成26年度業務実績に関する評価基準。(別紙のとおり)

(2) 評価の手法

病院機構の自己評価結果を含めて聴取し、これをもとに評価する。

6 評価結果

(1) 総合的な評定

評価委員会は、病院機構より提出された、平成26年度計画に係る事業報告書及び評価基準により自己評定した結果について、適正な評価であると認め、総合的には「非常に優れている」ものとして評価する。

平成26年度は、病院機構設立後7年度目、第2期中期目標期間の3年目となる。

日本海総合病院については、救命救急センターや地域医療支援病院などの指定を受ける地域の中核病院として、専門医の配置と、PET-CTやハイブリッド手術室などの整備により、救急医療、がん医療等の機能を十分に発揮した安全で高度かつ専門的な急性期医療が提供されている。酒田医療センターについては、3病棟フルオープンにより回復期リハビリテーションが充実され、地域ニーズに応じた回復、慢性期医療の提供がなされている。

病院機構が統合再編・法人化により進めてきた、日本海総合病院における急性期、酒田医療センターにおける回復・慢性期といった機能分担が一層進められ、ITネットワークの活用などによる地域の医療機関をはじめ保健・福祉・介護の各機関との連携が強化されたことにより、優秀な医療実績と効果的な業務運営が行われている。

職員配置、就労環境の整備については、医師の短時間正職員制度の継続、医療クラークや看護補助者等の配置増、認定看護師等の適所配置、注射薬自動払出装置の導入、院内保育所の24時間保育、病児・病後児保育の継続など、優れたスタッフの確保と業務負担軽減に積極的に取り組んでいる。特に、医療人材の確保・育成について、臨床研修医、レジデント及びスチューデントドクターを受け入れ、医師育成及び医学生の教育に努めている。

財務内容については、日本海総合病院では、延入院患者数の減少が見られるものの、病棟薬剤業務実施加算、看護職員夜間配置加算及び総合入院体制加算2等の施設基準を新たに届出たことによる入院診療単価の増加、初診料、外来診療料及び画像診断料(CT、MRI)等の点数増により外来診療単価が増加したこともあり、黒字決算となっている。また、酒田医療センターでは、リハビリテーション科の体制強化による営業収益が改善されている。病院機構全体として、設立初年度より7年間連続して黒字決算を計上し、中期計画の目標である経常収支比率100%以上が引き続き達成され、効率的な運営が行われている。

以上、平成26年度計画における業務の実績は、引き続き良好であり、病院機構の業務運営に対する努力について、評価委員会としては非常に高く評価するものである。

評価した項目

総項目数

85項目 【評価 S : 16、A : 66、B : 2、C : 1】

(2) 年度計画の各項目ごとの評定

1. 診療計画及び診療に関する重点事項

ア 評定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理由

日本海総合病院と酒田医療センター、2病院の医療機能の分担により、将来にわたり持続可能な経営に向けて、効率的で効果的な業務運営が行われている。業務実績についてもきわめて良好であり、地域の中核病院として地域医療水準の向上が図られている。

ウ 評価した項目

① 項目数

72項目 【評価 S : 13、A : 57、B : 1、C : 1】

② 特筆すべき項目

- ・ 紹介率、逆紹介率が非常に高く、地域医療支援病院として、他の地域医療機関との役割分担及び連携強化が図られ、急性期医療を担う中核病院の庄内二次医療圏の最後の砦として役割を果たしている。
- ・ 酒田地区医師会と協力連携し平日夜間救急外来の診療体制が確保されており、地域の救急医療の充実が図られている。
- ・ 地域がん診療連携拠点病院として緩和ケア、がん相談支援体制が充実され、PET-CTの検査件数が増加するなど、がん治療の強化が図られている。
- ・ 心機能の向上と患者の早期回復を図るため、体制を整備して心大血管リハビリテーションを毎日実施している。
- ・ 酒田医療センターの3病棟体制でのフルオープンにより、回復・慢性期医療の一層の充実が図られている、また、通所リハビリテーションの充実も図られている。
- ・ 山形大学医学部や東北大学医学部と協力連携し、臨床研修医、レジデント、スチューデントドクター等を受け入れ、医学生の教育、医師育成のほか、医療従事者の育成に継続して取り組んでいる。

- ・ 医師以外の医療スタッフ及び事務職員の人材育成の向上が図られている。
- ・ 認定看護師等の資格取得により、専門知識の習得と技能向上が図られ、より質の高い看護が提供されている。
- ・ 地域医療小児医療センターとして、地域の小児科医と日本海総合病院の小児科医が協力して、小児救急医療体制の確保が図られている。
- ・ 臓器移植について、提供施設としての訓練の実施に努められたい。
- ・ 新たなチームを立ち上げ先進的な医療の経カテーテル的大動脈弁置換術が実施されている。
- ・ 酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として役割を担い、実習指導を務めるなど、地域の医療水準の向上へ貢献している。
- ・ 情報セキュリティ向上は重要であることを認識し、医療情報や個人情報を取扱う職員及びちょうかいネットを利用する医療機関等へ、研修と指導に努められたい。

2. 人員配置の弾力的運用

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理 由

医師、看護師の負担軽減のため、医療クランク、看護補助者、事務補助者を増員し、人員配置の弾力的な運用が図られている。

ウ 評価した項目

① 項目数

4項目 【評価 S：1、A：3】

② 特筆すべき項目

- ・ 障害者雇用促進法に基づく障害者の雇用率が、昨年度と比較して倍増している。
- ・ 「スタッフ職員制度」（臨時職員登用制度）の継続により、雇用の安定と人材確保に努めている。

3. 施設整備及び医療機器等の整備計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理 由

総合的な費用対効果を検討し、高度医療機器等の更新・整備が行われている。

ウ 評価した項目

① 項目数

2項目 【評価 A : 2】

② 特筆すべき項目

- ・ 1.5テスラ超伝導MRI装置の更新
- ・ 自己資金での注射薬自動払出装置の新設
- ・ 建物総合診断の実施

4. 患者数の見込みと収支計画

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理 由

病院機構全体では、延入院患者数は増加したものの、延外来患者数は減少している。収支については、平均在院日数の短縮が図られたことや、新たな施設基準の届出、入院、外来診療単価の増加により黒字決算を計上し、病院機構設立以来7期連続して純利益を計上している。経常収支比率100%以上を達成するなど、財務内容についてもきわめて良好である。

ウ 評価した項目

① 項目数

1項目 【評価 S : 1】

② 特筆すべき項目

- ・ 単年度収支において黒字を計上、営業利益でも引き続き黒字を計上している。
- ・ 経常収支比率101.7%を達成している。
- ・ 人件費・材料費・経費の営業収益比率とも全国の500床以上の自治体黒字病院の平均値以下を達成している。

5. その他業務運営に関する事項

ア 評 定

年度計画に対する実績は、計画を上回っている。

イ 理 由

院内保育所などの就労環境の整備、人間ドック機能の継続、酒田市飛島診療所への支援、看護師等修学資金貸与制度の継続などが行われている。

ウ 評価した項目

① 項目数

6項目【評価 S：1、A：4、B：1】

② 特筆すべき項目

- ・ 日本海総合病院救命救急センターと酒田市飛島診療所、ドクターヘリとの連携により、スムーズな救急患者の対応が図られている。
- ・ 公益財団法人やまがた健康推進機構と連携して実施している、「内視鏡ドック（PET検診含む）」のPET/CT検診数増加に努められたい。

(3) 地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構に対する勧告等

なし

【別紙】

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構平成26年度業務実績に関する評価基準

1 平成26年度業務の実績に関する評価の基本方針

平成26年度地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構年度計画について、その実施状況を調査・分析し、業務の実績について評価を行なう。

2 業務の実績に関する評価の方法

計画に掲げた項目ごとに行なう「項目別評価」と「業務実績全体の状況について行なう全体評価」の2つを併せて行なうものとする。

(1) 項目別評価 項目別評価シート

項目別評価は、年度計画の個別項目毎の進捗状況について、下記により評価するものとする。

① 業務の実施状況を幅広く把握し、可能な限り客観的な評価の実施に努める。

- ・目標数値がある場合はその達成度合い、定性的な目標の場合は具体的な業務実績を把握し評価する
- ・業務実績については、その数量だけでなく、その質についても考慮する
- ・業務実績に影響を及ぼした要因、予期せぬ事情の変化等についても考慮する

② 判定基準として以下の5段階で評価し、原則としてその理由を付記する

(判定基準)

「S」 : 計画を大幅に上回っている

「A」 : 計画を上回っている

「B」 : 計画に概ね合致している

「C」 : 計画をやや下回っている

「D」 : 計画を下回っており、大幅な改善が必要

(2) 全体評価

全体評価は、(1)の項目別評価の結果を踏まえ、全体的な計画の進行状況や達成について、記述式等により評価するものとする。

平成 26 年度実績に関する評価

(項目別評価シート)

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	判定	委員会評定及び意見等														
1 診療計画及び診療に関する重点事項																				
(1) 診療計画																				
	<p>日本海総合病院及び日本海総合病院酒田医療センター（以下「酒田医療センター」という。）は、将来にわたり持続可能な経営に向けて努力するとともに、地域医療向上のために以下のような取組みを行った。</p>																			
①日本海総合病院																				
<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療支援病院として、安全で高度かつ専門的な急性期医療を提供する。 ・他の医療機関と連携して、住民が安心できる地域の医療提供体制を構築する。 ・庄内地域で唯一の救命救急センターとして、高度な救急医療を提供する。 ・地域がん診療連携拠点病院として、充実したがん治療を提供する。 ・災害拠点病院として、被災地域の患者の受入れ、及び医療スタッフの派遣等の医療救護活動を行う。 ・へき地医療拠点病院として、へき地の住民に対する医療提供及びその支援等へき地医療活動を行う。 ・エイズ治療拠点病院として、総合的かつ高度なエイズ治療を提供する。 	<p>地域の中核病院として急性期医療の充実に努め、地域医療支援病院をはじめとする各種指定の病院機能を十分に発揮し、「安心、信頼、高度な医療提供」及び「保健、医療、福祉の地域連携」の基本理念に基づいた医療の提供に努めた。</p> <table border="1"> <caption>日本海総合病院の機能</caption> <tr> <td>許可病床数</td> <td>646床</td> </tr> <tr> <td>診療科 (26科)</td> <td>内科、循環器内科、消化器内科、内臓臓内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳癌外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科</td> </tr> <tr> <td>病床の種別</td> <td>一般病床</td> </tr> <tr> <td>併設診療機能</td> <td>救命救急センター、屋上ヘリポート設置</td> </tr> <tr> <td>特殊診療機能</td> <td>ICU(集中治療室)、HCU(準集中治療室) 未熟児室 感染症病床 放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析 地域医療室(地域連携・在宅療養支援など)</td> </tr> <tr> <td>救急外来機能</td> <td>診療科全概</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>病院間移動用ワゴン車、院内保育所</td> </tr> </table>	許可病床数	646床	診療科 (26科)	内科、循環器内科、消化器内科、内臓臓内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳癌外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科	病床の種別	一般病床	併設診療機能	救命救急センター、屋上ヘリポート設置	特殊診療機能	ICU(集中治療室)、HCU(準集中治療室) 未熟児室 感染症病床 放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析 地域医療室(地域連携・在宅療養支援など)	救急外来機能	診療科全概	その他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所	<p>◇急性期医療を提供する、地域の中核病院としての役割を果たしたか。</p>	S	<p>▽平均在院日数が11.4日、救急搬送の受入れ件数が3,316件（うちヘリによる受入れが13件）、また紹介率が47.2%、逆紹介率が67.5%であり、地域における機能分化・連携が進み、庄内二次医療圏の最後の砦としての役割を果たした。</p>	S	自己評定のとおり
許可病床数	646床																			
診療科 (26科)	内科、循環器内科、消化器内科、内臓臓内科、精神科、神経内科、小児科、外科、乳癌外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、リハビリテーション科、皮膚科、産婦人科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、歯科口腔外科、麻酔科、救急科、病理診断科																			
病床の種別	一般病床																			
併設診療機能	救命救急センター、屋上ヘリポート設置																			
特殊診療機能	ICU(集中治療室)、HCU(準集中治療室) 未熟児室 感染症病床 放射線治療 外来がん化学療法 セカンドオピニオン外来 緩和ケア 人工透析 地域医療室(地域連携・在宅療養支援など)																			
救急外来機能	診療科全概																			
その他	病院間移動用ワゴン車、院内保育所																			
②酒田医療センター																				
<ul style="list-style-type: none"> ・療養及び回復期3病棟体制とし、地域のニーズに応じた医療を提供する。 ・回復期リハビリテーションの一層の充実に取り組む。 ・通所リハビリテーションの充実に図り、患者のQOL維持・向上に寄与する。 	<p>新たに回復期病棟1病棟の体制を整備し、計画していた療養病棟1病棟（35床）、回復期病棟2病棟（79床）でフルオープンし、療養及び回復期医療の一層の充実に努めた。</p> <p>理学療法士等を増員し、リハビリテーションの充実に図り、患者のQOL維持・向上に努めた。</p> <table border="1"> <caption>酒田医療センターの機能</caption> <tr> <td>許可病床数</td> <td>114床</td> </tr> <tr> <td>診療科 (2科)</td> <td>内科、リハビリテーション科</td> </tr> <tr> <td>病床の種別</td> <td>療養病床</td> </tr> <tr> <td>特殊診療機能</td> <td>地域医療室(地域連携・在宅療養支援など) 通所リハビリテーション(デイケア)</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>病院間移動用ワゴン車</td> </tr> </table>	許可病床数	114床	診療科 (2科)	内科、リハビリテーション科	病床の種別	療養病床	特殊診療機能	地域医療室(地域連携・在宅療養支援など) 通所リハビリテーション(デイケア)	その他	病院間移動用ワゴン車	<p>◇地域のニーズに応じた、リハビリテーションの充実に努めたか。</p>	A	<p>▽3病棟体制でのフルオープンにより、リハビリテーション科の延べ入院患者数が23,256名となり、平成25年度と比較して11,480名、97.5%増加し、地域が必要としていた医療の提供と充実に図った。</p> <p>また、理学療法士等を増員したことから、各種リハビリテーションの実施回数が増加した。</p>	A	自己評定のとおり				
許可病床数	114床																			
診療科 (2科)	内科、リハビリテーション科																			
病床の種別	療養病床																			
特殊診療機能	地域医療室(地域連携・在宅療養支援など) 通所リハビリテーション(デイケア)																			
その他	病院間移動用ワゴン車																			
(2) 診療に関する重点事項																				
①診療体制の整備																				
	<p>医療需要の質的・量的変化や新たな医療課題に適切に対応するため、平成26年度は、次のとおり診療部門の充実に図った。</p>																			

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	判定	委員会評定及び意見等																		
a) 救急医療																								
・救命救急センターの充実を図るため、救急科専門医を育成する。	○救命救急センターの機能の充実を図るため、救急科専門医1名を育成した。	◇救急科専門医を育成したか。	A	▽平成25年度から、日本海総合病院救命救急センターで研修を受けていた麻酔科の医師が、平成27年1月1日に一般社団法人日本救急医学会から救急科専門医として認定された。	A	自己評定のとおり																		
・酒田地区広域行政組合の酒田救急ワークステーションとの連携強化を図り、ドクターカーの配備について継続して検討を行う。	○ドクターカーの配備を検討するため、酒田地区広域行政組合の「酒田救急ワークステーション」との連携強化を図り、当該組合の要請によって医師及び看護師が救急車に同乗・出動した。 【実績】救急車同乗・出動件数 <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>4件</td> </tr> </table>	H24	H25	H26	3件	5件	4件	◇「酒田救急ワークステーション」と連携し、継続してドクターカー配備の検討を行ったか。	A	▽4件の出動要請があり、医師及び看護師が救急車に同乗して出動した。また、問題点等を把握するため、実際に出動したケースを踏まえて、今後も継続して検討することとした。	A	自己評定のとおり												
H24	H25	H26																						
3件	5件	4件																						
・一般社団法人酒田地区医師会十全堂（以下、「酒田地区医師会」という。）の協力を得て、平日夜間の成人・小児に対する診療体制を、酒田市の財政支援のもと維持する。	○より症状の重い患者に救命救急センターの医師が対応できるよう、一般社団法人酒田地区医師会十全堂（以下「酒田地区医師会」という。）の協力を得て、平日夜間救急外来（小児を含む。）を酒田市の財政支援のもと継続して行った。 【実績】救命救急センター受診状況 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>23,979名</td> <td>24,653名</td> <td>24,012名</td> </tr> <tr> <td>酒田地区医師会</td> <td>小児(延べ)</td> <td>(743名)</td> <td>(639名)</td> <td>(581名)</td> </tr> <tr> <td>診療支援</td> <td>成人(延べ)</td> <td>(1,715名)</td> <td>(1,582名)</td> <td>(1,280名)</td> </tr> </table> ※()内は、「延べ患者数」の内数である。		H24	H25	H26	延べ患者数	23,979名	24,653名	24,012名	酒田地区医師会	小児(延べ)	(743名)	(639名)	(581名)	診療支援	成人(延べ)	(1,715名)	(1,582名)	(1,280名)	◇酒田地区医師会の協力を得て、救急医療の充実を図ることができたか。	S	▽小児については、酒田地区医師会の7名の小児科医が協力医として登録し、これに日本海総合病院の小児科医が加わり、毎日、当番制で午後5時15分から午後10時まで、日本海総合病院救命救急センター内で診療にあたり、小児救急医療の充実を図った。 ▽小児以外の成人系については、酒田地区医師会の27名の医師が協力医師として登録し、当番制で平日の午後7時から午後10時まで、日本海総合病院救命救急センター内で比較的軽微な症状の患者の診療にあたり、このため日本海総合病院の医師は症状の重い患者の診療に専念することができ、役割分担を行うことで救急医療の充実を図った。	S	自己評定のとおり 救命救急センター内で地区医師会と病院が協力して、救急医療体制を確保している地域は他に例がなく、先進的な取組みであること、小児については平成20年度から、成人系については平成23年度から現体制を維持していることを評価する。
	H24	H25	H26																					
延べ患者数	23,979名	24,653名	24,012名																					
酒田地区医師会	小児(延べ)	(743名)	(639名)	(581名)																				
診療支援	成人(延べ)	(1,715名)	(1,582名)	(1,280名)																				
b) がん医療																								
・地域がん診療連携拠点病院としての機能充実	○地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実を図るため、緩和ケア内科の開設について検討し、平成27年4月からの標榜に向けて届出を行った。	◇地域がん診療連携拠点病院として、診療機能の充実に取組んだか。	S	▽地域がん診療連携拠点病院の指定要件で求められている5つの診療機能うち、緩和ケアの提供体制について、さらに充実したケアを提供するため、緩和ケア内科の開設に取組んだ。	S	自己評定のとおり																		
・PET/CTによるがん治療の強化、早期発見のための検診を拡充する。	○がんの早期発見のため、PET/CT検診の拡大に努めた。 【実績】PET/CT検査(検診)件数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>検査件数</td> <td>442件</td> <td>811件</td> <td>819件</td> </tr> <tr> <td>(うち検診件数)</td> <td>(22件)</td> <td>(186件)</td> <td>(112件)</td> </tr> </table>		H24	H25	H26	検査件数	442件	811件	819件	(うち検診件数)	(22件)	(186件)	(112件)	◇検査件数が増加したか。	A	▽がん治療の強化及び早期発見に努め、年間で819件のPET/CT検査を行った。前年度と比較して8件の増加であったが、2年連続して800件を超える検査を実施した。	A	自己評定のとおり						
	H24	H25	H26																					
検査件数	442件	811件	819件																					
(うち検診件数)	(22件)	(186件)	(112件)																					
・手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた治療の実施	○手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせ治療を実施した。 【実績】手術、放射線療法、外来化学療法の件数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>手術</td> <td>1,123件</td> <td>1,117件</td> <td>1,068件</td> </tr> <tr> <td>放射線療法</td> <td>7,793件</td> <td>7,928件</td> <td>6,726件</td> </tr> <tr> <td>外来化学療法</td> <td>3,092件</td> <td>4,922件</td> <td>3,739件</td> </tr> </table> ※「外来化学療法」の件数は、延べ実施件数である。		H24	H25	H26	手術	1,123件	1,117件	1,068件	放射線療法	7,793件	7,928件	6,726件	外来化学療法	3,092件	4,922件	3,739件	◇手術、放射線療法及び化学療法を効果的に組み合わせた治療が行われたか。	A	▽患者の状態にあった最適ながん治療を行った。	A	自己評定のとおり		
	H24	H25	H26																					
手術	1,123件	1,117件	1,068件																					
放射線療法	7,793件	7,928件	6,726件																					
外来化学療法	3,092件	4,922件	3,739件																					
・緩和ケア医療の充実	○緩和ケア医療の充実を図るため、次のとおり取組んだ。 【実績】病棟回診延べ患者数、緩和ケア外来患者数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>病棟回診</td> <td>367名</td> <td>449名</td> <td>457名</td> </tr> <tr> <td>緩和ケア外来</td> <td>105名</td> <td>168名</td> <td>101名</td> </tr> </table>		H24	H25	H26	病棟回診	367名	449名	457名	緩和ケア外来	105名	168名	101名	◇緩和ケア医療の充実に取組んだか。	A	▽平成25年度から、緩和ケア認定看護師が2名になったことから、そのうち1名を病棟に配置し、もう1名をがん相談支援センターに配置し、緩和ケア医療の充実に取組んだ。	A	自己評定のとおり						
	H24	H25	H26																					
病棟回診	367名	449名	457名																					
緩和ケア外来	105名	168名	101名																					
・緩和ケア病棟について、要件等の確認及び検討を行う。	○緩和ケア担当医と主治医における各種オーダー又は指示、使用病棟等の調整を行い、緩和ケア病棟に必要な体制整備を図った。	◇緩和ケア病棟の整備に向け、検討を行ったか。	A	緩和ケア担当医と主治医における、治療上の調整を行い試行した。試行しながら、継続して検討することとした。	A	自己評定のとおり																		
・セカンドオピニオン外来の充実	○セカンドオピニオン外来を、次のとおり行った。 【実績】実施件数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>4件(がん3件)</td> <td>11件(がん10件)</td> <td>7件(がん7件)</td> <td></td> </tr> </table>		H24	H25	H26	4件(がん3件)	11件(がん10件)	7件(がん7件)		◇セカンドオピニオン外来の充実に取組んだか。	A	▽専門医の認定を受けた医師及びがん相談員又は緩和ケア認定看護師の資格を有する看護師が、懇切丁寧な説明と相談にあたった。	A	自己評定のとおり										
	H24	H25	H26																					
4件(がん3件)	11件(がん10件)	7件(がん7件)																						

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	自己評定	委員会評定及び意見等																																																							
<p>・がん登録機能、相談支援体制の充実</p>	<p>○地域がん診療連携拠点病院として、次のとおりがん登録を行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 193 875 264"> <tr> <td colspan="4">【実績】がん登録件数</td> </tr> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>院内がん登録</td> <td>1,684件</td> <td>1,705件</td> <td>1,568件</td> </tr> <tr> <td>地域がん登録</td> <td>1,653件</td> <td>1,680件</td> <td>1,549件</td> </tr> </table> <p>○研修を修了した5名のがん相談員（看護師3名、社会福祉士2名）により相談を実施し、患者及び家族の支援を行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 347 770 403"> <tr> <td colspan="3">【実績】がん相談件数</td> </tr> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>818件</td> <td>1,204件</td> <td>963件</td> </tr> </table>	【実績】がん登録件数					H24	H25	H26	院内がん登録	1,684件	1,705件	1,568件	地域がん登録	1,653件	1,680件	1,549件	【実績】がん相談件数			H24	H25	H26	818件	1,204件	963件	<p>◇地域がん診療連携拠点病院として、がん登録を行ったか。</p> <p>◇相談支援体制の充実を図ったか。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>▽地域がん診療連携拠点病院として「院内がん登録」を行うとともに、「地域がん登録」に積極的に協力した。</p> <p>▽がん相談支援センターの看護師3名と社会福祉士2名の「がん相談員」が、お互いに連携して治療や医療費等の様々な相談に対応できる体制を維持し、がん相談の充実を図った。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>																														
【実績】がん登録件数																																																											
	H24	H25	H26																																																								
院内がん登録	1,684件	1,705件	1,568件																																																								
地域がん登録	1,653件	1,680件	1,549件																																																								
【実績】がん相談件数																																																											
H24	H25	H26																																																									
818件	1,204件	963件																																																									
<p>c) 脳卒中・急性心筋梗塞</p>																																																											
<p>・救命救急センターと関係する各診療科、リハビリテーション部門との連携強化を図り、患者の社会復帰に寄与する。</p>	<p>○急性心筋梗塞に対し、医師、看護師、コメディカルスタッフが連携し「door to balloon time」（最短時間でカテーテル治療を開始するまでの時間の短縮）を実践した。</p>	<p>◇救命救急センターにおいて、スタッフ同士の連携強化を図ったか。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>▽どの時間帯であっても、救急搬送されてから90分以内にカテーテル治療を行うことができるよう、体制構築とスタッフの連携強化を図った。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>																																																							
<p>・CT、MRI検査の24時間対応の継続</p>	<p>○専門的医療やCT、MRI検査の24時間対応を継続した。</p> <table border="1" data-bbox="510 592 875 663"> <tr> <td colspan="4">【実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>CT</td> <td>1,015件</td> <td>934件</td> <td>730件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>819件</td> <td>929件</td> <td>844件</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="510 667 875 738"> <tr> <td colspan="4">【実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数</td> </tr> <tr> <td>機器</td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>CT</td> <td>255件</td> <td>265件</td> <td>331件</td> </tr> <tr> <td>MRI</td> <td>40件</td> <td>31件</td> <td>18件</td> </tr> </table>	【実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数				機器	H24	H25	H26	CT	1,015件	934件	730件	MRI	819件	929件	844件	【実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数				機器	H24	H25	H26	CT	255件	265件	331件	MRI	40件	31件	18件	<p>◇継続して24時間対応を行い、その後の治療に適切に対応することができたか。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>▽緊急治療又は手術など、適切に対応することができた。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>																							
【実績】脳梗塞、くも膜下出血、脳動脈瘤、脳内出血で実施した件数																																																											
機器	H24	H25	H26																																																								
CT	1,015件	934件	730件																																																								
MRI	819件	929件	844件																																																								
【実績】心筋梗塞、狭心症で実施した件数																																																											
機器	H24	H25	H26																																																								
CT	255件	265件	331件																																																								
MRI	40件	31件	18件																																																								
<p>・日本海総合病院における急性期リハビリテーションの充実及び酒田医療センターにおける回復期リハビリテーションとの連携強化を図る。</p>	<p>○日本海総合病院では急性期リハビリテーションの充実を図り、酒田医療センターの回復期リハビリテーションとの連携強化を図った。</p> <table border="1" data-bbox="510 825 945 880"> <tr> <td colspan="6">【実績】心大血管疾患リハビリテーション科1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">H24</td> <td colspan="2">H25</td> <td colspan="2">H26</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>回数(単位数)</td> <td>実患者数</td> <td>回数(単位数)</td> <td>実患者数</td> <td>回数(単位数)</td> </tr> <tr> <td>422名</td> <td>9,196回</td> <td>534名</td> <td>12,453回</td> <td>889名</td> <td>17,658回</td> </tr> </table> <table border="1" data-bbox="510 884 945 957"> <tr> <td colspan="6">【実績】脳血管疾患リハビリテーション科1</td> </tr> <tr> <td colspan="2">H24</td> <td colspan="2">H25</td> <td colspan="2">H26</td> </tr> <tr> <td>実患者数</td> <td>回数(単位数)</td> <td>実患者数</td> <td>回数(単位数)</td> <td>実患者数</td> <td>回数(単位数)</td> </tr> <tr> <td>1,303名</td> <td>44,118回</td> <td>1,400名</td> <td>43,956回</td> <td>1,492名</td> <td>49,034回</td> </tr> <tr> <td>酒田医療センター</td> <td>243名</td> <td>40,963回</td> <td>269名</td> <td>48,761回</td> <td>375名</td> <td>86,175回</td> </tr> </table>	【実績】心大血管疾患リハビリテーション科1						H24		H25		H26		実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	422名	9,196回	534名	12,453回	889名	17,658回	【実績】脳血管疾患リハビリテーション科1						H24		H25		H26		実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	1,303名	44,118回	1,400名	43,956回	1,492名	49,034回	酒田医療センター	243名	40,963回	269名	48,761回	375名	86,175回	<p>◇心大血管疾患リハビリテーションの充実を図り、患者数等が増加したか。</p> <p>◇両病院の連携のもと、酒田医療センターの脳血管疾患リハビリテーションの患者数等が増加したか。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>▽日本海総合病院の心大血管疾患リハビリテーションは、患者数、回数がともに増加し、患者1人当たりの回数も増加した。</p> <p>▽酒田医療センターの回復期リハビリテーション病棟が2病棟体制になったことに加え、さらに両病院間の連携を図ったことから、酒田医療センターの脳血管疾患リハビリテーションは、実患者数及び回数が大きく増加した。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>
【実績】心大血管疾患リハビリテーション科1																																																											
H24		H25		H26																																																							
実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)																																																						
422名	9,196回	534名	12,453回	889名	17,658回																																																						
【実績】脳血管疾患リハビリテーション科1																																																											
H24		H25		H26																																																							
実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)																																																						
1,303名	44,118回	1,400名	43,956回	1,492名	49,034回																																																						
酒田医療センター	243名	40,963回	269名	48,761回	375名	86,175回																																																					
<p>・日本海総合病院において、心大血管リハビリテーションを土曜日にも実施する。</p>	<p>○患者の早期回復を図るため、日本海総合病院において土、日、祝日の心大血管リハビリテーションを開始した。</p> <table border="1" data-bbox="510 1048 732 1104"> <tr> <td colspan="3">【実績】土、日、祝日の実施件数等</td> </tr> <tr> <td>延べ患者数</td> <td>回数</td> <td>日数</td> </tr> <tr> <td>611名</td> <td>734回</td> <td>121日</td> </tr> </table>	【実績】土、日、祝日の実施件数等			延べ患者数	回数	日数	611名	734回	121日	<p>◇心大血管リハビリテーションを土曜日にも実施したか。</p>	<p>判定</p> <p>S</p> <p>▽心機能の向上と患者の早期回復を図るため、スタッフの体制を整備し、毎日、心大血管リハビリテーションを実施した。</p>	<p>判定</p> <p>S</p> <p>自己評定のとおり毎日実施したことを評価する。</p>																																														
【実績】土、日、祝日の実施件数等																																																											
延べ患者数	回数	日数																																																									
611名	734回	121日																																																									

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	判定	委員会評定及び意見等																																																																																
<p>d) 糖尿病 (日本海総合病院)</p> <p>・チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた集中的治療の充実を図る。</p>	<p>○チーム医療による食事療法、運動療法、薬物療法等を組み合わせた教育入院等の治療を継続して行った。</p> <p>【実績】教育入院患者数</p> <table border="1"> <tr><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>83名</td><td>52名</td><td>65名</td></tr> </table> <p>【実績】個別栄養指導件数</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院</td><td>239件</td><td>252件</td><td>300件</td></tr> <tr><td>外来</td><td>336件</td><td>327件</td><td>400件</td></tr> <tr><td>合計</td><td>575件</td><td>579件</td><td>700件</td></tr> </table> <p>○糖尿病教室を次のとおり開催した。</p> <p>【実績】開催回数、参加人数</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>開催回数</td><td>12回</td><td>14回</td><td>16回</td></tr> <tr><td>参加人数</td><td>45名</td><td>44名</td><td>55名</td></tr> </table> <p>○看護師と管理栄養士が共同で、次のとおり糖尿病透析予防指導を行った。</p> <p>【実績】糖尿病透析予防指導の実患者数、指導回数</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>実患者数</td><td>2名</td><td>25名</td><td>30名</td></tr> <tr><td>指導回数</td><td>5回</td><td>55回</td><td>73回</td></tr> </table>	H24	H25	H26	83名	52名	65名		H24	H25	H26	入院	239件	252件	300件	外来	336件	327件	400件	合計	575件	579件	700件		H24	H25	H26	開催回数	12回	14回	16回	参加人数	45名	44名	55名		H24	H25	H26	実患者数	2名	25名	30名	指導回数	5回	55回	73回	<p>◇チーム医療による糖尿病治療を行ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽血糖値コントロールのための自己注射の必要性、糖尿病による合併症発生の危険性、予防などについて、それぞれの職種が、それぞれの分野から患者にアプローチして治療を行った。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>																																				
H24	H25	H26																																																																																				
83名	52名	65名																																																																																				
	H24	H25	H26																																																																																			
入院	239件	252件	300件																																																																																			
外来	336件	327件	400件																																																																																			
合計	575件	579件	700件																																																																																			
	H24	H25	H26																																																																																			
開催回数	12回	14回	16回																																																																																			
参加人数	45名	44名	55名																																																																																			
	H24	H25	H26																																																																																			
実患者数	2名	25名	30名																																																																																			
指導回数	5回	55回	73回																																																																																			
<p>e) 回復期リハビリテーション (酒田医療センター)</p> <p>・回復期リハビリテーションの充実のため、理学療法士等を増員する。</p> <p>・ドライプシステムを導入し、社会復帰に必要な動作の評価・測定を行い、より効果的なリハビリテーションを行う。</p> <p>・通所リハビリテーションを引き続き行う。</p>	<p>○回復期リハビリテーションの充実のため、理学療法士を3名、作業療法士を2名、言語聴覚士を1名それぞれ増員し23名体制とした。</p> <p>○73名の患者にドライプシミュレーションシステムを活用し、社会復帰に必要な動作の評価・測定を行い、効果的なリハビリテーションの提供に努めた。</p> <p>○通所リハビリテーション(デイケア)の利用者拡大を図った。</p> <p>【実績】リハビリテーション科の延べ患者数</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院</td><td>11,366名</td><td>11,776名</td><td>23,256名</td></tr> <tr><td>外来</td><td>120名</td><td>392名</td><td>534名</td></tr> </table> <p>【実績】リハビリテーションの実施状況</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>実患者数</td><td>回数(単位数)</td><td>実患者数</td><td>回数(単位数)</td><td>実患者数</td><td>回数(単位数)</td></tr> <tr><td>外リハビリテーション</td><td>9名</td><td>299回</td><td>18名</td><td>498回</td><td>13名</td><td>433回</td></tr> <tr><td>通所リハビリテーション</td><td></td><td></td><td>20名</td><td>1,040回</td><td>22名</td><td>1,651回</td></tr> </table> <p>※「通所リハビリテーション」の「回数(単位数)」は、利用者の通所回数である。</p>		H24	H25	H26	入院	11,366名	11,776名	23,256名	外来	120名	392名	534名		H24	H25	H26	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	外リハビリテーション	9名	299回	18名	498回	13名	433回	通所リハビリテーション			20名	1,040回	22名	1,651回	<p>◇理学療法士等を増員し、リハビリテーションの充実を図ったか。</p> <p>◇患者の状態に合わせて、より効果的なリハビリテーションを行ったか。</p> <p>◇通所リハビリテーションの利用者拡大を図ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽3病棟フルオープンにともない、リハビリスタッフを23名体制として充実を図った。リハビリテーション科の延べ入院患者数が増加したことにより、リハビリテーションの実施回数等も増加した。</p> <p>A</p> <p>▽患者の状態を評価・測定することで、より効果的にリハビリテーションを提供した。</p> <p>S</p> <p>▽平成25年度と比較して、通所回数が611回増加したものの、実利用者数で2名の増加であった。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p> <p>S</p> <p>自己評定のとおり</p>																																														
	H24	H25	H26																																																																																			
入院	11,366名	11,776名	23,256名																																																																																			
外来	120名	392名	534名																																																																																			
	H24	H25	H26																																																																																			
実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)	実患者数	回数(単位数)																																																																																	
外リハビリテーション	9名	299回	18名	498回	13名	433回																																																																																
通所リハビリテーション			20名	1,040回	22名	1,651回																																																																																
<p>f) 在宅医療支援及び療養支援</p> <p>・地域の介護機関・福祉機関・医療機関との連携を強化するため、相談窓口機能の充実を図る。</p>	<p>○日本海総合病院では、地域医療室及び医療連携室の看護師7名又は社会福祉士3名が、地域の介護・福祉・医療機関及び患者との退院調整業務を行った。</p> <p>○酒田医療センターでは看護師2名体制で、退院調整及び入院前面談等を実施した。</p> <p>【実績】退院調整</p> <table border="1"> <tr><td></td><td colspan="3">日本海総合病院</td><td colspan="3">酒田医療センター</td></tr> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>他病院</td><td>875件</td><td>953件</td><td>984件</td><td>28件</td><td>33件</td><td>38件</td></tr> <tr><td>在宅</td><td>527件</td><td>492件</td><td>416件</td><td>177件</td><td>231件</td><td>324件</td></tr> <tr><td>介護老人保健施設</td><td>70件</td><td>84件</td><td>98件</td><td>39件</td><td>41件</td><td>24件</td></tr> <tr><td>介護老人福祉施設</td><td>154件</td><td>110件</td><td>118件</td><td>5件</td><td>1件</td><td>3件</td></tr> <tr><td>ショートステイ</td><td>89件</td><td>101件</td><td>82件</td><td>11件</td><td>8件</td><td>10件</td></tr> <tr><td>有料老人ホーム</td><td>115件</td><td>130件</td><td>112件</td><td>21件</td><td>12件</td><td>13件</td></tr> <tr><td>その他</td><td>81件</td><td>61件</td><td>69件</td><td>8件</td><td>4件</td><td>2件</td></tr> <tr><td>合計</td><td>1,906件</td><td>1,931件</td><td>1,879件</td><td>289件</td><td>330件</td><td>414件</td></tr> </table> <p>【実績】入院前面談件数(酒田医療センター)</p> <table border="1"> <tr><td></td><td>H24</td><td>H25</td><td>H26</td></tr> <tr><td>入院前面談件数</td><td>397件</td><td>498件</td><td>535件</td></tr> <tr><td>うち入院患者数</td><td>377名</td><td>471名</td><td>506名</td></tr> </table>		日本海総合病院			酒田医療センター				H24	H25	H26	H24	H25	H26	他病院	875件	953件	984件	28件	33件	38件	在宅	527件	492件	416件	177件	231件	324件	介護老人保健施設	70件	84件	98件	39件	41件	24件	介護老人福祉施設	154件	110件	118件	5件	1件	3件	ショートステイ	89件	101件	82件	11件	8件	10件	有料老人ホーム	115件	130件	112件	21件	12件	13件	その他	81件	61件	69件	8件	4件	2件	合計	1,906件	1,931件	1,879件	289件	330件	414件		H24	H25	H26	入院前面談件数	397件	498件	535件	うち入院患者数	377名	471名	506名	<p>◇退院調整又は入院前面談を効率的に行い、切れ目のないサービス提供に努めたか。</p>	<p>A</p> <p>▽日本海総合病院では、相談窓口機能の充実及び効率化によって、看護師と社会福祉士が情報交換しながら、より多くの患者の退院調整を行い、切れ目のないサービス提供に努めた。</p> <p>▽酒田医療センターでは、2名体制で効率的に、より多くの患者の退院調整及び入院前面談を行い、切れ目のないサービス提供に努めた。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>
	日本海総合病院			酒田医療センター																																																																																		
	H24	H25	H26	H24	H25	H26																																																																																
他病院	875件	953件	984件	28件	33件	38件																																																																																
在宅	527件	492件	416件	177件	231件	324件																																																																																
介護老人保健施設	70件	84件	98件	39件	41件	24件																																																																																
介護老人福祉施設	154件	110件	118件	5件	1件	3件																																																																																
ショートステイ	89件	101件	82件	11件	8件	10件																																																																																
有料老人ホーム	115件	130件	112件	21件	12件	13件																																																																																
その他	81件	61件	69件	8件	4件	2件																																																																																
合計	1,906件	1,931件	1,879件	289件	330件	414件																																																																																
	H24	H25	H26																																																																																			
入院前面談件数	397件	498件	535件																																																																																			
うち入院患者数	377名	471名	506名																																																																																			

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	自己評価	委員会評価及び意見等																																								
<p>・急性増悪による入院の受入れなど、在宅患者及び介護・福祉機関の患者に対して、かかりつけ医と連携して医療支援を行う。</p>	<p>○在宅患者及び介護・福祉施設の入所者に対して、かかりつけ医と連携して医療支援を行った。</p>	<p>◇在宅又は施設入所の患者に対して、かかりつけ医と連携して医療支援を行ったか。</p>	<p>判定 A ▽「ちょうかいネット」を活用して連携強化を図り、医療支援を行った。</p>	<p>判定 A 自己評価のとおり</p>																																								
<p>・酒田地区医師会訪問看護ステーション「スワン」との連携の強化を図る。</p>	<p>○酒田医療センターと酒田地区医師会訪問看護ステーション「スワン」は、互いの協力が必要な患者において、それぞれの情報を交換し、より適切な対応をとることができるように連携を図った。</p>	<p>◇酒田地区医師会訪問看護ステーション「スワン」と連携強化を図ったか。</p>	<p>A ▽訪問看護ステーション「スワン」を利用する患者が、入院が必要となった場合に備え、患者情報の交換や空床数の情報提供を行い連携強化を図った。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>																																								
<p>g) 病棟再編</p>																																												
<p>・地域の医療ニーズ及び医療提供体制の変化に伴い、日本海総合病院において病棟再編を実施する。</p>	<p>○最近の入院患者の動向、より効果的な治療体制を考慮し、病棟診療科の再編を実施した。</p>	<p>◇日本海総合病院において、病棟再編を実施したか。</p>	<p>A ▽地域の医療ニーズや入院患者の動向を踏まえ、3南病棟においては16床を休床とし、看護単位の見直しを行うとともに、効率的な入院治療のため、病棟間で診療科の移動を行った。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>																																								
<p>h) その他</p>																																												
<p>・日本海総合病院において、入院患者の食事メニューの充実を図る。</p>	<p>○日本海総合病院の入院患者の食事メニューについて、祝い膳や嚥下食の改善を行った。また、サイクルメニューの拡充について、平成27年度中の実施に向けて検討を行った。</p>	<p>◇日本海総合病院において、入院患者の食事メニューの充実に取組んだか。</p>	<p>A ▽祝い膳については、食器も含めて改善を行い、一品量を少なくし、品数を多くした。 ▽嚥下食については、管理栄養士と調理師が病棟を訪問し、患者の状態に応じた「一口大」の認識を統一した。また、少量で高カロリーが必要な患者については、濃厚流動食品を新たに採用した。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>																																								
<p>・両病院間の患者移動のため、「げんき号」を効率的に運行する。</p>	<p>○日本海総合病院と酒田医療センターの両病院間における患者の移動のため、「げんき号」を定期便の他、必要に応じて臨時便を運行した。</p> <table border="1" data-bbox="510 683 878 758"> <thead> <tr> <th>【実績】利用実績</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ乗車人数</td> <td>4,057名</td> <td>3,975名</td> <td>3,751名</td> </tr> <tr> <td>乗車率</td> <td>12.9%</td> <td>12.7%</td> <td>12.2%</td> </tr> </tbody> </table>	【実績】利用実績	H24	H25	H26	延べ乗車人数	4,057名	3,975名	3,751名	乗車率	12.9%	12.7%	12.2%	<p>◇「げんき号」の効率的な運行に努めたか。</p>	<p>A ▽1日7便の定期便の他に、必要に応じて臨時便を運行し、患者の移動に支障が生じないように、効率的な運行に努めた。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>																												
【実績】利用実績	H24	H25	H26																																									
延べ乗車人数	4,057名	3,975名	3,751名																																									
乗車率	12.9%	12.7%	12.2%																																									
<p>②災害時や健康危機における医療協力（日本海総合病院）</p>																																												
<p>・災害発生時には、災害拠点病院として患者を受け入れるとともに、県の要請に基づき、又は自ら必要と認めるときは、DMAT（災害派遣医療チーム）等、医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を行う。</p>	<p>○平成26年11月22日に長野県北部を震源とした震度6弱（DMAT自動待機基準）の地震が発生し、本院DMAT隊員も待機となった。しかし、厚生労働省DMAT事務局より派遣を要請する可能性は低いとされ、待機は解除され出動はしなかった。</p>	<p>◇要請に応じて、速やかに出動できる態勢を整えたか。</p>	<p>A ▽厚生労働省DMAT事務局から待機要請があり、夜間であったにもかかわらず速やかに隊員1名が出動し、他の隊員に当院の対応を連絡し、出動態勢を整えた。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>																																								
<p>・地域が被災した場合に備え、酒田市が実施する「酒田市総合防災訓練」に参加する。</p>	<p>○他の機関が実施した災害医療訓練又は研修に、次のとおり参加した。</p> <table border="1" data-bbox="510 991 949 1161"> <thead> <tr> <th>訓練実施日</th> <th>会場</th> <th>訓練・研修名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.8.29~7.2</td> <td>東京都立川市</td> <td>日本DMAT隊員養成研修</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>H26.7.23</td> <td>天童市</td> <td>災害時医療救護に関する研修会</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>H26.8.2</td> <td>山形市</td> <td>山形県災害時医療救護訓練</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>H26.8.9~10</td> <td>山形市</td> <td>DMAT技能維持研修</td> <td>9名</td> </tr> <tr> <td>H26.8.30</td> <td>新潟空港、他</td> <td>広域医療搬送訓練</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>H26.9.7</td> <td>酒田市</td> <td>酒田市総合防災訓練</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>H26.10.5</td> <td>青森市</td> <td>東北DMAT参加訓練</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>H26.11.8</td> <td>山形市</td> <td>みちのくALERT2014</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>H26.11.18</td> <td>酒田市</td> <td>庄内空港航空機事故消火救護訓練</td> <td>2名</td> </tr> </tbody> </table>	訓練実施日	会場	訓練・研修名	参加人数	H26.8.29~7.2	東京都立川市	日本DMAT隊員養成研修	5名	H26.7.23	天童市	災害時医療救護に関する研修会	3名	H26.8.2	山形市	山形県災害時医療救護訓練	5名	H26.8.9~10	山形市	DMAT技能維持研修	9名	H26.8.30	新潟空港、他	広域医療搬送訓練	5名	H26.9.7	酒田市	酒田市総合防災訓練	5名	H26.10.5	青森市	東北DMAT参加訓練	6名	H26.11.8	山形市	みちのくALERT2014	5名	H26.11.18	酒田市	庄内空港航空機事故消火救護訓練	2名	<p>◇他の機関が実施する災害医療訓練又は研修に参加したか。</p>	<p>A ▽DMAT隊員を訓練又は研修に参加させ、隊員の技能向上を図った。また、地域の防災訓練に参加し、地域での役割、他の機関との連携を確認した。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>
訓練実施日	会場	訓練・研修名	参加人数																																									
H26.8.29~7.2	東京都立川市	日本DMAT隊員養成研修	5名																																									
H26.7.23	天童市	災害時医療救護に関する研修会	3名																																									
H26.8.2	山形市	山形県災害時医療救護訓練	5名																																									
H26.8.9~10	山形市	DMAT技能維持研修	9名																																									
H26.8.30	新潟空港、他	広域医療搬送訓練	5名																																									
H26.9.7	酒田市	酒田市総合防災訓練	5名																																									
H26.10.5	青森市	東北DMAT参加訓練	6名																																									
H26.11.8	山形市	みちのくALERT2014	5名																																									
H26.11.18	酒田市	庄内空港航空機事故消火救護訓練	2名																																									
<p>・航空機事故に備え、山形県が実施する「庄内空港消火救護訓練」に参加する。</p>	<p>○他の機関が実施した研修に、インストラクターを派遣した。</p> <table border="1" data-bbox="510 1214 949 1358"> <thead> <tr> <th>研修実施日</th> <th>会場</th> <th>訓練・研修名</th> <th>派遣人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.8.29~7.2</td> <td>東京都立川市</td> <td>日本DMAT隊員養成研修</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>H26.8.2</td> <td>山形市</td> <td>山形県災害時医療救護訓練</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>H26.8.9~10</td> <td>山形市</td> <td>DMAT技能維持研修</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>H26.8.30</td> <td>九州地方</td> <td>広域医療搬送訓練</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>H26.10.5</td> <td>青森市</td> <td>東北DMAT参加訓練</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>H26.11.8</td> <td>山形市</td> <td>みちのくALERT2014</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>H27.1.17~18</td> <td>仙台市</td> <td>DMAT技能維持研修</td> <td>1名</td> </tr> </tbody> </table>	研修実施日	会場	訓練・研修名	派遣人数	H26.8.29~7.2	東京都立川市	日本DMAT隊員養成研修	2名	H26.8.2	山形市	山形県災害時医療救護訓練	2名	H26.8.9~10	山形市	DMAT技能維持研修	1名	H26.8.30	九州地方	広域医療搬送訓練	2名	H26.10.5	青森市	東北DMAT参加訓練	1名	H26.11.8	山形市	みちのくALERT2014	2名	H27.1.17~18	仙台市	DMAT技能維持研修	1名											
研修実施日	会場	訓練・研修名	派遣人数																																									
H26.8.29~7.2	東京都立川市	日本DMAT隊員養成研修	2名																																									
H26.8.2	山形市	山形県災害時医療救護訓練	2名																																									
H26.8.9~10	山形市	DMAT技能維持研修	1名																																									
H26.8.30	九州地方	広域医療搬送訓練	2名																																									
H26.10.5	青森市	東北DMAT参加訓練	1名																																									
H26.11.8	山形市	みちのくALERT2014	2名																																									
H27.1.17~18	仙台市	DMAT技能維持研修	1名																																									
<p>・山形県が実施する、庄内空港をSCU（広域搬送拠点）としての機能整備において、医療機器の保管管理及び医療救護活動等について協力を行うとともに、補助金を活用して「DMATカー」を導入する。</p>	<p>○庄内SCU（航空搬送拠点臨時医療施設）の機能整備への協力として、山形県が所有の医療用資機材を日本海総合病院のDMAT資材庫で預かり管理を行った。 ○山形県の補助金を利用し、DMAT救急車を導入した。</p>	<p>◇SCUの機能整備において、山形県に協力したか。 ◇DMAT救急車を導入したか。</p>	<p>A ▽山形県が所有の医療資機材を預かり、要請に応じて速やかに運搬できるよう管理した。 ▽医療救護活動に必要なため、補助金を活用しDMAT救急車を導入した。</p>	<p>A 自己評価のとおり</p>																																								

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	自己評定	委員会評定及び意見等																																										
<p>・地域の医療従事者を対象とした災害医療研修を実施する。</p>	<p>○災害対策委員会が主体となって、日本海総合病院全職員、委託業者及び地域の医療従事者を対象に、災害医療研修を次のとおり実施した。</p> <table border="1" data-bbox="510 209 947 424"> <thead> <tr> <th>実施日</th> <th>場 所</th> <th>訓練・研修名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.5.29</td> <td>日本海総合病院 講堂</td> <td>災害医療の基礎とトリアージ</td> <td>149名 (うち院外5名)</td> </tr> <tr> <td>H26.6.26</td> <td>日本海総合病院 エントランス</td> <td>模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力:酒田地区広域行政組合消防本部</td> <td>105名 (うち院外7名)</td> </tr> <tr> <td>H26.7.26</td> <td>日本海総合病院 エントランス</td> <td>災害対応机上訓練 (本館・新設部門)</td> <td>98名 (うち院外2名)</td> </tr> <tr> <td>H26.9.20</td> <td>日本海総合病院 エントランス</td> <td>災害対応実動訓練 協力:酒田地区広域行政組合消防本部 酒田市立酒田看護専門学校</td> <td>221名 (うち院外10名)</td> </tr> <tr> <td>H28.10.1</td> <td>日本海総合病院 講堂</td> <td>災害対応実動訓練 総括</td> <td>47名</td> </tr> <tr> <td>H26.11.22</td> <td>日本海総合病院 エントランス</td> <td>災害対応机上訓練 (本館・病棟)</td> <td>75名</td> </tr> </tbody> </table>	実施日	場 所	訓練・研修名	参加人数	H26.5.29	日本海総合病院 講堂	災害医療の基礎とトリアージ	149名 (うち院外5名)	H26.6.26	日本海総合病院 エントランス	模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力:酒田地区広域行政組合消防本部	105名 (うち院外7名)	H26.7.26	日本海総合病院 エントランス	災害対応机上訓練 (本館・新設部門)	98名 (うち院外2名)	H26.9.20	日本海総合病院 エントランス	災害対応実動訓練 協力:酒田地区広域行政組合消防本部 酒田市立酒田看護専門学校	221名 (うち院外10名)	H28.10.1	日本海総合病院 講堂	災害対応実動訓練 総括	47名	H26.11.22	日本海総合病院 エントランス	災害対応机上訓練 (本館・病棟)	75名	<p>◇日本海総合病院の職員だけでなく、地域の医療従事者等を含めて訓練又は研修を実施したか。</p>	<p>判定 A ▽災害拠点病院としての責務を果たすため、関係機関の協力と参加を得ながら、地域が被災した場合を想定して訓練と研修を行った。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおり</p>														
実施日	場 所	訓練・研修名	参加人数																																											
H26.5.29	日本海総合病院 講堂	災害医療の基礎とトリアージ	149名 (うち院外5名)																																											
H26.6.26	日本海総合病院 エントランス	模擬患者を使ったトリアージ研修会 協力:酒田地区広域行政組合消防本部	105名 (うち院外7名)																																											
H26.7.26	日本海総合病院 エントランス	災害対応机上訓練 (本館・新設部門)	98名 (うち院外2名)																																											
H26.9.20	日本海総合病院 エントランス	災害対応実動訓練 協力:酒田地区広域行政組合消防本部 酒田市立酒田看護専門学校	221名 (うち院外10名)																																											
H28.10.1	日本海総合病院 講堂	災害対応実動訓練 総括	47名																																											
H26.11.22	日本海総合病院 エントランス	災害対応机上訓練 (本館・病棟)	75名																																											
<p>・小型非常用発電装置、医薬品、診療材料、飲料水などを備蓄する。</p>	<p>○災害発生時に備え、災害医療対策用機器を整備した。</p> <table border="1" data-bbox="510 475 947 600"> <thead> <tr> <th>機 材</th> <th>種 類 名</th> <th>メーカ</th> <th>規 格</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">災害 拠点 病院 設備</td> <td>壁掛用型スタートレバー</td> <td>船山物</td> <td>800×340×950mm(設置時) 520×220×20mm(取付け時)</td> <td>14式</td> </tr> <tr> <td>ホワイトボード</td> <td>プラス</td> <td>1,200×800mm</td> <td>5台</td> </tr> <tr> <td>電動式水巻防止用品 (ボックスホルム)</td> <td>日本スタップ 工業物</td> <td>705×680×528mm</td> <td>56個</td> </tr> <tr> <td>ボックスホルム運搬用金庫</td> <td>日本スタップ 工業物</td> <td>最大寸法500mm</td> <td>2台</td> </tr> </tbody> </table> <p>○災害発生時に備え、職員用の食糧を備蓄した。</p> <table border="1" data-bbox="510 639 947 730"> <thead> <tr> <th>品 名 等</th> <th>メーカ</th> <th>賞味期限</th> <th>数 量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カローレイトロングライフ</td> <td>大塚製薬株</td> <td>2018年2月</td> <td>5箱</td> </tr> <tr> <td>ミルクビスケット24缶/箱</td> <td>朝日ブルボン</td> <td>2019年11月</td> <td>12箱288缶</td> </tr> <tr> <td>ミニクラッカー24缶/箱</td> <td>朝日ブルボン</td> <td>2019年11月</td> <td>12箱288缶</td> </tr> <tr> <td>防災用備蓄パン24缶/箱</td> <td>あすなろパン</td> <td>2020年7月</td> <td>12箱288缶</td> </tr> </tbody> </table>	機 材	種 類 名	メーカ	規 格	数 量	災害 拠点 病院 設備	壁掛用型スタートレバー	船山物	800×340×950mm(設置時) 520×220×20mm(取付け時)	14式	ホワイトボード	プラス	1,200×800mm	5台	電動式水巻防止用品 (ボックスホルム)	日本スタップ 工業物	705×680×528mm	56個	ボックスホルム運搬用金庫	日本スタップ 工業物	最大寸法500mm	2台	品 名 等	メーカ	賞味期限	数 量	カローレイトロングライフ	大塚製薬株	2018年2月	5箱	ミルクビスケット24缶/箱	朝日ブルボン	2019年11月	12箱288缶	ミニクラッカー24缶/箱	朝日ブルボン	2019年11月	12箱288缶	防災用備蓄パン24缶/箱	あすなろパン	2020年7月	12箱288缶	<p>◇災害医療対策用機器の整備及び食糧等の備蓄を行ったか。</p>	<p>判定 A ▽災害対策用医療機器等を整備又は食糧の備蓄を行い、DMATの医療活動及び災害拠点病院の機能の充実を図った。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおり</p>
機 材	種 類 名	メーカ	規 格	数 量																																										
災害 拠点 病院 設備	壁掛用型スタートレバー	船山物	800×340×950mm(設置時) 520×220×20mm(取付け時)	14式																																										
	ホワイトボード	プラス	1,200×800mm	5台																																										
	電動式水巻防止用品 (ボックスホルム)	日本スタップ 工業物	705×680×528mm	56個																																										
	ボックスホルム運搬用金庫	日本スタップ 工業物	最大寸法500mm	2台																																										
品 名 等	メーカ	賞味期限	数 量																																											
カローレイトロングライフ	大塚製薬株	2018年2月	5箱																																											
ミルクビスケット24缶/箱	朝日ブルボン	2019年11月	12箱288缶																																											
ミニクラッカー24缶/箱	朝日ブルボン	2019年11月	12箱288缶																																											
防災用備蓄パン24缶/箱	あすなろパン	2020年7月	12箱288缶																																											
<p>・非常用発電機の燃料や医薬品等の優先納入体制を維持する。</p>	<p>○災害時においても、優先納入できることを条件として物品購入契約を締結し、優先納入体制を維持した。</p>	<p>◇継続して優先納入体制を維持したか。</p>	<p>判定 A ▽契約書に条件を明記して、継続して災害時における物品の優先納入体制を維持した。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおり</p>																																										
<p>・新型インフルエンザをはじめ新たな感染症が発生したときは、山形県と連携して対応する。</p>	<p>○新型インフルエンザ等対策特別措置法に規定する県の指定地方公共機関として、「新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画」を策定した。</p>	<p>◇新たな感染症などが発生した場合に、関係機関と連携して患者を受入れるための体制を整備したか。</p>	<p>判定 A ▽新たな感染症が発生した場合に備え、院内感染対策マニュアルを改訂するとともに、「新型インフルエンザ等発生時における診療継続計画」を策定し、患者の受入れ体制を整備した。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおり</p>																																										
<p>③政策医療の実施（日本海総合病院）</p>																																														
<p>・第二種感染症指定医療機関として、速やかな感染症患者の受け入れのためのマニュアルの見直しを定期的に行う。</p>	<p>○エボラ出血熱の患者受入等に備え、対応フローを作成し、院内感染マニュアルを改訂した。 また、新型インフルエンザ等対策行動計画を策定し、感染症対策の体制整備に努めた。</p>	<p>◇感染症患者を速やかに受入れるため、マニュアルの見直しを行い、受入体制の維持に努めたか。</p>	<p>判定 A ▽エボラ出血熱の流行にともない、患者が発生した場合に備え、対応フローを院内感染対策マニュアルに追加した。また、新型インフルエンザ等対策行動計画を新たに策定し、体制の整備に努めた。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおり</p>																																										
<p>・認知症疾患医療センターを運営し、認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等について継続して実施していく。</p>	<p>○「認知症疾患医療センター」を運営し、引き続き認知症疾患患者の専門医療相談、鑑別診断等を行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 1118 947 1182"> <thead> <tr> <th>【実績】相談件数</th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規相談件数</td> <td>789件</td> <td>733件</td> <td>741件</td> </tr> <tr> <td>継続相談件数</td> <td>286件</td> <td>416件</td> <td>355件</td> </tr> </tbody> </table>	【実績】相談件数	H24	H25	H26	新規相談件数	789件	733件	741件	継続相談件数	286件	416件	355件	<p>◇「認知症疾患医療センター」としての役割を果たしたか。</p>	<p>判定 A ▽庄内地域で唯一の「認知症疾患医療センター」として、1,000件を超える相談等に対応した。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおり</p>																														
【実績】相談件数	H24	H25	H26																																											
新規相談件数	789件	733件	741件																																											
継続相談件数	286件	416件	355件																																											
<p>・臓器移植について、提供施設として訓練を行う。</p>	<p>○臓器移植の理解を深めるため、庄内地域の医療従事者等を対象に、次のとおり講演会を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="510 1246 947 1326"> <thead> <tr> <th>【実績】</th> <th>実施日時</th> <th>研 修 内 容 等</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>H27.2.7</td> <td>「脳死臓器提供について」</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>日本海総合病院 講堂</td> <td>東北大学病院 務部・再建・内視鏡外科 准教授 川原 直樹 先生</td> <td>104名</td> </tr> </tbody> </table>	【実績】	実施日時	研 修 内 容 等	参加人数		H27.2.7	「脳死臓器提供について」			日本海総合病院 講堂	東北大学病院 務部・再建・内視鏡外科 准教授 川原 直樹 先生	104名	<p>◇提供施設としての訓練を行い、関係機関との連携の強化を図ったか。</p>	<p>判定 B ▽臓器移植に対する理解を深め、関係機関それぞれの役割を確認し、連携の強化を図るため講演会を開催した。</p>	<p>判定 B 自己評定のとおり</p>																														
【実績】	実施日時	研 修 内 容 等	参加人数																																											
	H27.2.7	「脳死臓器提供について」																																												
	日本海総合病院 講堂	東北大学病院 務部・再建・内視鏡外科 准教授 川原 直樹 先生	104名																																											
<p>・小児医療について、第6次山形県保健医療計画に基づき、一般小児医療から小児専門医療まで、及び初期小児救急から入院を要する小児救急を行う「地域小児医療センター」としての役割を果たしていく。</p>	<p>○地域の小児医療機関の協力を得て、午後5時15分から午後10時まで、小児科医が救命救急センターに常駐し、地域の小児救急医療体制の確保に努めた。</p>	<p>◇「地域小児医療センター」としての役割を果たしたか。</p>	<p>判定 S ▽「地域小児医療センター」として、地域の小児科医と日本海総合病院の小児科医が協力して、小児救急医療体制を確保し、熱性痙攣、異物誤嚥などの治療にあたった。</p>	<p>判定 S 自己評定のとおり</p>																																										

地方独立行政法人山形県・市町村病院機構 項目別評価シート

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	委員会評定及び意見等																																								
<p>・周産期医療について、第6次山形県保健医療計画に基づき、周産期に係る比較的高度な「二次周産期医療」を行う。</p>	<p>○二次周産期医療を行う拠点病院として、周産期に係る比較的高度な産科医療を実施した。</p> <p>【実績】母体・新生児の救急受入れ患者数等</p> <table border="1"> <tr> <td>救急受入れ患者数</td> <td>緊急帝王切開術(件)</td> </tr> <tr> <td>母体</td> <td>新生児</td> </tr> <tr> <td>7名</td> <td>8名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>22件</td> </tr> </table>	救急受入れ患者数	緊急帝王切開術(件)	母体	新生児	7名	8名		22件	<p>◇比較的高度な「二次周産期医療」を行ったか。</p>	A	<p>▽ハイリスクな分娩や帝王切開など、高度な周産期医療を提供するとともに、他の医療機関から救急搬送された分娩停止で意識を消失した母体、呼吸障害の新生児等を受入れた。</p>	A 自己評定のとおり																																
救急受入れ患者数	緊急帝王切開術(件)																																												
母体	新生児																																												
7名	8名																																												
	22件																																												
<p>④医療スタッフの確保及び資質向上</p> <p>a) 医療人材の確保・育成</p>																																													
<p>・山形大学との臨床実習協定により学生ドクターを受け入れ、医学生の教育及び医師育成の一翼を担う。</p> <p>・臨床研修医及びレジデント(専門分野の研修医をいう。)の受け入れ拡大に努め、教育研修体制の充実を図る。</p>	<p>○医学生の教育及び医師育成のため、臨床研修医、レジデント及び学生ドクター等を受入れた。</p> <p>【実績】臨床研修医等の年間受入れ人数</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>臨床研修医</td> <td>21名</td> <td>20名</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>レジデント</td> <td>16名</td> <td>23名</td> <td>28名</td> </tr> <tr> <td>学生ドクター</td> <td>19名</td> <td>38名</td> <td>51名</td> </tr> <tr> <td>臨床医学修練生</td> <td>1名</td> <td>2名</td> <td>0名</td> </tr> <tr> <td>地域医療実習生</td> <td>4名</td> <td>4名</td> <td>5名</td> </tr> </table>		H24	H25	H26	臨床研修医	21名	20名	28名	レジデント	16名	23名	28名	学生ドクター	19名	38名	51名	臨床医学修練生	1名	2名	0名	地域医療実習生	4名	4名	5名	<p>◇継続して医学生の教育及び医師育成に取り組んだか。</p>	S	<p>▽臨床研修医及びレジデントの受入れだけでなく、山形大学からは協定により学生ドクターを、東北大学からは地域医療実習の医学生を継続し受入れ、医師育成及び医学生の教育に取り組んだ。</p>	S 自己評定のとおり																
	H24	H25	H26																																										
臨床研修医	21名	20名	28名																																										
レジデント	16名	23名	28名																																										
学生ドクター	19名	38名	51名																																										
臨床医学修練生	1名	2名	0名																																										
地域医療実習生	4名	4名	5名																																										
<p>・地方独立行政法人那覇市立病院に、日本海総合病院から2年次目の臨床研修医8名を送出させ、交換地域医療研修を実施する。</p>	<p>○2年次の臨床研修医8名が地方独立行政法人那覇市立病院において、地域医療研修を実施した。</p>	<p>◇地方独立行政法人那覇市立病院において、地域医療研修を実施したか。</p>	A	<p>▽実施初年度にあたり、日本海総合病院から8名の臨床研修医を、地方独立行政法人那覇市立病院に派遣して地域医療研修を実施した。平成27年度からは、お互いにそれぞれの臨床研修医を受入れることとした。</p>	A 自己評定のとおり																																								
<p>・医師以外の医療スタッフを育成するため、専門学校等の要請に基づき実習生を受け入れる。</p>	<p>○医師以外の医療スタッフの育成をするため、各種学校等の要請に基づき可能な限り実習生の受け入れを行った。</p> <p>【実績】実習生等の受入れ状況</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>看護部(山形県立山形看護専門学校)</td> <td>89名</td> <td>99名</td> <td>100名</td> </tr> <tr> <td>薬剤部</td> <td>0名</td> <td>1名</td> <td>1名</td> </tr> <tr> <td>検査部</td> <td>0名</td> <td>2名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>リハビリテーション室(科)</td> <td>13名</td> <td>16名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>ME室</td> <td>0名</td> <td>2名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>栄養管理室</td> <td>3名</td> <td>4名</td> <td>3名</td> </tr> <tr> <td>歯科口腔外科</td> <td>3名</td> <td>0名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>医事課</td> <td>3名</td> <td>1名</td> <td>2名</td> </tr> <tr> <td>医療連携室</td> <td>2名</td> <td>6名</td> <td>5名</td> </tr> </table>		H24	H25	H26	看護部(山形県立山形看護専門学校)	89名	99名	100名	薬剤部	0名	1名	1名	検査部	0名	2名	2名	リハビリテーション室(科)	13名	16名	18名	ME室	0名	2名	3名	栄養管理室	3名	4名	3名	歯科口腔外科	3名	0名	6名	医事課	3名	1名	2名	医療連携室	2名	6名	5名	<p>◇医師以外の医療スタッフの育成に取り組んだか。</p>	A	<p>▽看護学生をはじめ、医師以外の医療スタッフについても実習施設又は要請により受け入れを行い、育成及び教育に取り組んだ。</p>	A 自己評定のとおり
	H24	H25	H26																																										
看護部(山形県立山形看護専門学校)	89名	99名	100名																																										
薬剤部	0名	1名	1名																																										
検査部	0名	2名	2名																																										
リハビリテーション室(科)	13名	16名	18名																																										
ME室	0名	2名	3名																																										
栄養管理室	3名	4名	3名																																										
歯科口腔外科	3名	0名	6名																																										
医事課	3名	1名	2名																																										
医療連携室	2名	6名	5名																																										
<p>・医師以外の医療スタッフについて、各種研修会及び学会等に参加し、専門的知識と技術の習得に努める。</p>	<p>○より質の高い看護を提供するため、次のとおり研修会を実施した。</p> <table border="1"> <tr> <th>開催日</th> <th>研修名</th> <th>参加人数</th> <th>研修内容</th> </tr> <tr> <td>H26.6.25</td> <td>H26年度 新着 研修会</td> <td>23名</td> <td>「看護研究(新着) 看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 看護実践学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生</td> </tr> <tr> <td>H26.6.26</td> <td>H26年度 個人研究 ラダー 研修会</td> <td>11名</td> <td>「看護研究(新着) 看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 成人慢性期看護学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生</td> </tr> <tr> <td>H26.8.8</td> <td>H26年度 レベル1 研修会</td> <td>88名</td> <td>「ベンダーの看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生</td> </tr> <tr> <td>H26.9.26</td> <td>H26年度 レベル2 研修会</td> <td>49名</td> <td>「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生</td> </tr> <tr> <td>H26.10.14</td> <td>H26年度 個人研究 ラダー 研修会</td> <td>20名</td> <td>「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 成人慢性期看護学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生</td> </tr> <tr> <td>H26.10.23</td> <td>H26年度 新着 研修会</td> <td>24名</td> <td>「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 看護実践学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生</td> </tr> <tr> <td>H26.10.28</td> <td>H26年度 全職種 職員 研修会</td> <td>172名</td> <td>「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生</td> </tr> </table>	開催日	研修名	参加人数	研修内容	H26.6.25	H26年度 新着 研修会	23名	「看護研究(新着) 看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 看護実践学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生	H26.6.26	H26年度 個人研究 ラダー 研修会	11名	「看護研究(新着) 看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 成人慢性期看護学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生	H26.8.8	H26年度 レベル1 研修会	88名	「ベンダーの看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生	H26.9.26	H26年度 レベル2 研修会	49名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生	H26.10.14	H26年度 個人研究 ラダー 研修会	20名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 成人慢性期看護学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生	H26.10.23	H26年度 新着 研修会	24名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 看護実践学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生	H26.10.28	H26年度 全職種 職員 研修会	172名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生	<p>◇医師以外の医療スタッフが研修等に参加し、専門知識の習得及び技能の向上を図ったか。</p>	S	<p>▽学会、研修会等に参加し、専門技能の向上を図った。 ▽日本海総合病院の診療放射線専門員が、石灰化ブランク除去法と画像構築に関する研究を行い、所定の審査及び試験に合格し、山形大学で博士の学位を取得した。</p>	A 博士の学位を取得したことは評価するが、全体的に計画を大幅に上回っているとは認めがたい。								
開催日	研修名	参加人数	研修内容																																										
H26.6.25	H26年度 新着 研修会	23名	「看護研究(新着) 看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 看護実践学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生																																										
H26.6.26	H26年度 個人研究 ラダー 研修会	11名	「看護研究(新着) 看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 成人慢性期看護学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生																																										
H26.8.8	H26年度 レベル1 研修会	88名	「ベンダーの看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生																																										
H26.9.26	H26年度 レベル2 研修会	49名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生																																										
H26.10.14	H26年度 個人研究 ラダー 研修会	20名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 成人慢性期看護学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生																																										
H26.10.23	H26年度 新着 研修会	24名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形大学 医学部看護学 看護実践学講座 佐藤 片岡 ひとみ 先生																																										
H26.10.28	H26年度 全職種 職員 研修会	172名	「看護実践研究発表会」開催に際しての研修 山形県立山形看護専門学校 副学長 荒川 妙 先生																																										
<p>・認定看護師の資格を取得するため、看護師を研修に派遣する。</p>	<p>○1名の看護師が、手術看護認定看護師の資格を取得した。</p>	<p>◇認定看護師を養成したか。</p>	A	<p>▽既に研修を修了した看護師1名が、手術看護認定看護師の資格を取得した。21分野ある認定看護師のうち、これまでに9分野において認定看護師を養成した。</p>	S 継続して認定看護師を要請していることを評価する、引き続き養成について配慮されたい。																																								
<p>・災害支援ナース及びDMAT隊員の育成を図る。</p>	<p>○医師1名、看護師2名、業務調整員2名が研修を受け、新たに5名のDMAT隊員を養成した。</p>	<p>◇DMAT隊員を養成したか。</p>	A	<p>▽新たに5名のDMAT隊員を養成した。隊員数が合計で19名となり、3チームを編成することができ、万が一災害が発生した場合でも、長期間の医療活動が可能となった。</p>	A 自己評定のとおり																																								

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	自己評定	委員会評定及び意見等																					
<p>・多職種が協働し、効率的に良質な医療サービスを提供するため、栄養サポートチーム、緩和ケアチーム、人工呼吸サポートチーム、院内感染対策チーム及び褥瘡対策チームによる「チーム医療」を推進する。</p> <p>・看護学生等の申請により修学資金を貸与し、優秀な看護師又は助産師の育成に寄与する。</p>	<p>○多職種が協働し、効率的に良質な医療サービスを提供するため、栄養サポートチームや人工呼吸サポートチーム等によるチーム医療を推進するとともに、新たに「ハートチーム」を立ち上げた。</p> <p>○地域医療に貢献する優秀な看護師又は助産師を確保するため、8名の看護学生等に修学資金の貸与を行った。</p>	<p>◇新たなチームを立ち上げ、先進的な医療を行うことができたか。</p>	<p>判定 S</p> <p>▽新たに「ハートチーム」を立ち上げ、先進的な医療である「経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)」を実施した。</p>	<p>判定 S</p> <p>自己評定のとおり</p>																					
<p>b) 事務職員の確保と専門性の向上</p>	<p>○今後の地域医療政策のあり方について考察を深めるため、政策研究大学院大学(修士課程)に事務職員1名を派遣した。</p>	<p>◇医療政策に通じた人材の育成を図ったか。</p>	<p>判定 S</p> <p>▽日本海総合病院の5年目の事務職員が、医療政策コースで1年間学習し、修士課程を修了した。</p>	<p>判定 S</p> <p>自己評定のとおり</p>																					
<p>・政策研究大学院大学に事務職員1名を派遣し、医療政策に通じた人材の育成を図る。</p>	<p>○医療法人健友会 本間病院及び庄内医療生活協同組合 鶴岡協立病院の事務職員と、平成27年3月13日に合同活動発表会を開催し、事務職員の知識の習得と専門性の向上を図った。</p>	<p>◇合同活動発表会を通じて、知識の習得と専門性の向上を図ることができたか。</p>	<p>判定 A</p> <p>▽他病院と情報交換を行うことで、それぞれの病院が抱える課題、持っているノウハウを得ることができた。</p>	<p>判定 A</p> <p>自己評定のとおり</p>																					
<p>・他病院との合同研修会及び交流を通して、人材育成と専門性の向上を図る。</p>	<p>○外部講師による次のような研修会を開催し、医師事務作業補助者の専門知識の習得と資質向上を図った。</p>	<p>◇研修会を開催し、専門知識の習得と資質の向上を図ったか。</p>	<p>判定 A</p> <p>▽診療報酬に関する研修会だけでなく、各部門が開催する勉強会にも積極的に参加させ、資質の向上を図った。</p>	<p>判定 A</p> <p>自己評定のとおり</p>																					
<p>・医師事務作業補助者の資質向上を図る。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実施日等</th> <th>研修内容等</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.11.17</td> <td>第1回 診療報酬研修会</td> <td>63名</td> </tr> <tr> <td>日本海総合病院</td> <td>「DPCについて」</td> <td>(全体参加者)</td> </tr> <tr> <td>講堂</td> <td>株式会社ニチイ学館酒田支店 病院長 櫻塚 千香 氏</td> <td>92名</td> </tr> <tr> <td>H27.3.19</td> <td>第2回 診療報酬研修会</td> <td>51名</td> </tr> <tr> <td>日本海総合病院</td> <td>「紹介率・逆紹介率向上に向けて」</td> <td>(全体参加者)</td> </tr> <tr> <td>講堂</td> <td>株式会社ニチイ学館酒田支店 病院長 櫻塚 千香 氏</td> <td>53名</td> </tr> </tbody> </table>	実施日等	研修内容等	参加人数	H26.11.17	第1回 診療報酬研修会	63名	日本海総合病院	「DPCについて」	(全体参加者)	講堂	株式会社ニチイ学館酒田支店 病院長 櫻塚 千香 氏	92名	H27.3.19	第2回 診療報酬研修会	51名	日本海総合病院	「紹介率・逆紹介率向上に向けて」	(全体参加者)	講堂	株式会社ニチイ学館酒田支店 病院長 櫻塚 千香 氏	53名	<p>⑤医療サービスの効果的な提供</p>		
実施日等	研修内容等	参加人数																							
H26.11.17	第1回 診療報酬研修会	63名																							
日本海総合病院	「DPCについて」	(全体参加者)																							
講堂	株式会社ニチイ学館酒田支店 病院長 櫻塚 千香 氏	92名																							
H27.3.19	第2回 診療報酬研修会	51名																							
日本海総合病院	「紹介率・逆紹介率向上に向けて」	(全体参加者)																							
講堂	株式会社ニチイ学館酒田支店 病院長 櫻塚 千香 氏	53名																							
<p>a) 地域連携の推進</p>	<p>○地域の中核的な医療機関及び地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担及び連携の強化を図った。</p> <p>○当初、地域医療支援病院の指定要件である紹介率60%以上、逆紹介率30%以上を目標としていた。しかし、平成26年4月から指定要件が変更(紹介率・逆紹介率及びその計算方法の変更)になったことから、紹介率50%以上、逆紹介率70%以上に目標を変更して対応し、10月以降の年度後半においては目標を上回る月もあり、年間では紹介率が47.2%、逆紹介率が67.5%と目標まで近づくことができた。</p> <p>【実績】紹介率及び逆紹介率 ※実績(通期)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率</td> <td>61.9%</td> <td>62.2%</td> <td>47.2%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率</td> <td>45.2%</td> <td>47.2%</td> <td>67.5%</td> </tr> </tbody> </table> <p>※地域医療支援病院における算出方法による。(前科口腔科を除く。)</p> <p>○日本海総合病院は、山形県立こころの医療センターの要請により「医療連携及び緊急時の患者搬送措置に関する覚書」及び「医療観察保護法対象者の入院受入協定書」を締結し、医療観察法病棟等に入院した患者で、急性期医療が必要となった患者の受入れについて連携を図った。</p>		H24	H25	H26	紹介率	61.9%	62.2%	47.2%	逆紹介率	45.2%	47.2%	67.5%	<p>◇日本海総合病院は地域医療支援病院としての役割を果たすとともに、他の医療機関との役割分担及び連携の強化が図られたか。</p>	<p>判定 S</p> <p>▽庄内地域の中核的な医療機関として、紹介・逆紹介を推進し、地域の他の医療機関との役割分担及び連携の強化を図った。</p>	<p>判定 S</p> <p>自己評定のとおり</p>									
	H24	H25	H26																						
紹介率	61.9%	62.2%	47.2%																						
逆紹介率	45.2%	47.2%	67.5%																						
<p>・地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関との積極的な情報交換や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へとシームレスなサービスの提供に努める。</p>	<p>○地域包括支援センターや地域の介護・福祉機関との連携を強化し、介護・福祉機関との積極的な情報交換や、退院時カンファレンスの取組みの強化等により、医療から介護・福祉へと切れ目のないサービスの提供に努めた。</p>	<p>◇介護・福祉機関へと切れ目のないサービスの提供に努めたか。</p>	<p>判定 A</p> <p>▽患者の退院に際して、退院後に必要な介護サービス等について、他の施設の介護支援専門員と共同で指導等を行い、医療から介護・福祉へ切れ目のないサービスの提供に努めた。</p>	<p>判定 A</p> <p>自己評定のとおり</p>																					

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	委員会評定及び意見等																																											
<p>b) ITネットワークの活用(「ちょうかいネット」の活用推進)</p> <p>・平成23年度から稼働している「ちょうかいネット」について、利用医療機関等の拡大を図る。</p>	<p>○平成23年4月から稼働した「ちょうかいネット」について、利用する医療機関等の拡大を図った。</p> <p>【表情】同社況 当年度の3月31日現在</p> <table border="1" data-bbox="501 231 952 319"> <thead> <tr> <th>病院</th> <th>内科</th> <th>外科</th> <th>産科</th> <th>小児科</th> <th>介護老人保健施設</th> <th>訪問看護ステーション</th> <th>療養所</th> <th>その他</th> <th>計</th> <th>延べ登録患者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24</td> <td>15施設</td> <td>53施設</td> <td>6施設</td> <td>11施設</td> <td>4施設</td> <td>2施設</td> <td>0施設</td> <td>1施設</td> <td>42施設</td> <td>6,669名</td> </tr> <tr> <td>H25</td> <td>16施設</td> <td>81施設</td> <td>9施設</td> <td>13施設</td> <td>5施設</td> <td>3施設</td> <td>1施設</td> <td>1施設</td> <td>109施設</td> <td>11,355名</td> </tr> <tr> <td>H26</td> <td>17施設</td> <td>92施設</td> <td>14施設</td> <td>13施設</td> <td>6施設</td> <td>3施設</td> <td>29施設</td> <td>1施設</td> <td>145施設</td> <td>15,824名</td> </tr> </tbody> </table>	病院	内科	外科	産科	小児科	介護老人保健施設	訪問看護ステーション	療養所	その他	計	延べ登録患者数	H24	15施設	53施設	6施設	11施設	4施設	2施設	0施設	1施設	42施設	6,669名	H25	16施設	81施設	9施設	13施設	5施設	3施設	1施設	1施設	109施設	11,355名	H26	17施設	92施設	14施設	13施設	6施設	3施設	29施設	1施設	145施設	15,824名	<p>◇利用医療機関等を拡大するとともに、登録患者数が増加したか。</p>	<p>S</p> <p>▽平成25年度と比較して、利用施設数が36施設増加するとともに、延べ登録患者数も約4,500名増加した。地域における医療・介護のネットワークが、「ちょうかいネット」を中心にして、着々と進展している。</p>	<p>S</p> <p>自己評定のとおり</p>
病院	内科	外科	産科	小児科	介護老人保健施設	訪問看護ステーション	療養所	その他	計	延べ登録患者数																																						
H24	15施設	53施設	6施設	11施設	4施設	2施設	0施設	1施設	42施設	6,669名																																						
H25	16施設	81施設	9施設	13施設	5施設	3施設	1施設	1施設	109施設	11,355名																																						
H26	17施設	92施設	14施設	13施設	6施設	3施設	29施設	1施設	145施設	15,824名																																						
<p>c) 地域連携クリティカルパスの活用</p> <p>・大腿骨頸部骨折、5大がん、脳卒中の地域連携クリティカルパスの適用件数増加を図る。</p> <p>・急性心筋梗塞及び糖尿病パスの導入について、継続して検討を行う。</p> <p>・「前立腺がんパス」の導入を検討する。</p> <p>・「認知症ケアパス」について、関係機関と協同で導入にむけて検討を行う。</p>	<p>○「ちょうかいネット」を活用し、大腿骨頸部骨折、5大がん、脳卒中の地域連携クリティカルパスの適用件数の増加に努めた。</p> <p>○病診連携を考慮した心臓リハビリテーションクリティカルパスの運用を開始した。</p> <p>○前立腺がん(前立腺がん内分泌療法)の地域連携クリティカルパスを稼働させた。</p> <p>【表情】地域連携クリティカルパス適用件数</p> <table border="1" data-bbox="501 582 952 774"> <thead> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肺がん</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>大腸がん</td> <td>13件</td> <td>19件</td> <td>21件</td> </tr> <tr> <td>肝がん</td> <td>0件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>乳がん</td> <td>24件</td> <td>18件</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>胃がん</td> <td>9件</td> <td>27件</td> <td>19件</td> </tr> <tr> <td>大腿骨頸部骨折</td> <td>105件</td> <td>118件</td> <td>144件</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>92件</td> <td>290件</td> <td>246件</td> </tr> <tr> <td>心臓リハビリテーション</td> <td></td> <td></td> <td>87件</td> </tr> <tr> <td>前立腺がん</td> <td></td> <td></td> <td>17件</td> </tr> </tbody> </table> <p>○酒田市が実施主体の「酒田市認知症ケアパス作成・普及啓発事業」に共催で参加し、酒田地区医師会をはじめ地域の関係機関と協同で、患者の状態に応じた適切なサービス提供を考慮し、医療機関情報や生活支援情報を含んだ「認知症ケアパス」の作成を開始した。</p>		H24	H25	H26	肺がん	0件	0件	0件	大腸がん	13件	19件	21件	肝がん	0件	0件	0件	乳がん	24件	18件	14件	胃がん	9件	27件	19件	大腿骨頸部骨折	105件	118件	144件	脳卒中	92件	290件	246件	心臓リハビリテーション			87件	前立腺がん			17件	<p>◇地域連携パスの適用が、継続して推進されたか。</p> <p>◇効率的かつ効果的な医療の提供のため、新たな地域連携クリティカルパスが作成されたか。</p> <p>◇関係機関と「認知症ケアパス」の導入に向けて検討を行ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽地域連携クリティカルパスの全体適用件数が、新たに2つのクリティカルパスが稼働したこともあり、平成25年度と比較して大きく増加した。患者負担の軽減及び他の医療機関との機能分担を図り、効率的かつ効果的な医療提供に努めた。</p> <p>A</p> <p>▽地域の関係機関と協同で作成し、部分的に運用を開始した。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>				
	H24	H25	H26																																													
肺がん	0件	0件	0件																																													
大腸がん	13件	19件	21件																																													
肝がん	0件	0件	0件																																													
乳がん	24件	18件	14件																																													
胃がん	9件	27件	19件																																													
大腿骨頸部骨折	105件	118件	144件																																													
脳卒中	92件	290件	246件																																													
心臓リハビリテーション			87件																																													
前立腺がん			17件																																													
<p>⑥ 庄内地域における医療水準の向上</p> <p>・庄内地域の他の医療機関と交流を行い、連携強化を図る。</p> <p>・平成23年度から日本海総合病院内に開設された山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室について、継続して調査活動に協力する。</p> <p>・日本海総合病院は、酒田市立看護専門学校の実習施設としての役割を担う。</p> <p>・酒田市立看護専門学校の看護教員を育成する。</p>	<p>○外科手術のための庄内医療生活協同組合 鶴岡協立病院への医師の派遣など、庄内地域の他の医療機関との交流及び連携強化を図った。</p> <p>○平成23年度から日本海総合病院内に開設されている、山形大学医学部先端分子疫学研究所酒田分室について、継続して調査活動に協力した。</p> <p>○日本海総合病院は、酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として88名の看護学生を受入れるとともに、他の専門学校等からも10名の看護学生を受入れた。</p> <p>○産休及び育児休業取得者が増え、看護教員を養成するため職員を派遣することにより、病院の看護体制に影響することが懸念されたため、平成26年度は見送ることとした。</p>	<p>◇庄内地域の他の医療機関等との連携強化を図ったか。</p> <p>◇継続して調査活動に協力したか。</p> <p>◇実習施設としての役割を果たしたか。</p> <p>◇看護学生の教育体制の充実を図るため、看護教員を養成したか。</p>	<p>A</p> <p>▽情報交換等の交流だけでなく、実際に手術のために日本海総合病院から医師を派遣し、具体的な交流及び連携強化を図った。</p> <p>A</p> <p>▽継続して、当該研究所酒田分室の設置及び調査活動に協力した。</p> <p>S</p> <p>▽酒田市立酒田看護専門学校の実習施設として、日本海総合病院の医師が講師を務めるとともに、その他の専門学校等の学生を含め看護師が主体となって実習指導に務めた。</p> <p>B</p> <p>▽諸事情により、看護教員の養成は見送ったが、日本海総合病院に看護教員の免許を持った看護師が7名、臨床指導者講習会を受講した看護師33名を確保し、看護学生の指導にあたった。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p> <p>A</p> <p>看護師の養成に貢献していることは評価するが、計画を大幅に上回っているとは認めがたい。</p> <p>A</p> <p>看護体制に影響するという理由を認め、A評価とする。</p>																																												

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	自己評定	委員会評定及び意見等																														
<p>・地域の医療・介護従事者を含めた、各種研修会等を開催する。</p>	<p>○地域の医療従事者を含め、次のような研修会等を開催した。</p> <table border="1" data-bbox="517 183 938 694"> <thead> <tr> <th>実施日時</th> <th>研修内容等</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.6.11</td> <td>緩和ケア勉強会 「緩和医療における非特異的疼痛の管理」 第一三共株式会社 東北支店 斎藤 洋 氏</td> <td>122名 (うち院外30名)</td> </tr> <tr> <td>H26.6.16</td> <td>感染対策研修会 「敗血症診療におけるターゲツトマナーゲジメント ～敗血症性DICの診断と治療～」 山形大学医学部附属病院 集中治療部 感染対策 中塚 正樹 先生</td> <td>131名 (うち院外3名)</td> </tr> <tr> <td>H26.7.11</td> <td>感染対策研修会 「今、エビデンス以上の感染対策を！」 東北大学薬機センター 大橋病院 外 丸 勲 先生 堀 浩 也 先生</td> <td>131名 (うち院外10名)</td> </tr> <tr> <td>H26.9.10</td> <td>緩和ケア勉強会 「がん療養と緩和ケア～オピオイドを中心～」 大日本住友製薬株式会社 製品企画部 担当者</td> <td>47名 (うち院外4名)</td> </tr> <tr> <td>H26.10.16</td> <td>感染対策研修会 「MRSA感染の管理」 山形大学医学部附属病院 感染制御部 副部長 羽 谷 一 先生</td> <td>156名 (うち院外24名)</td> </tr> <tr> <td>H26.10.31</td> <td>「精神障害と認知症」 米沢市立病院 精神科部長 渡辺 雅 子 先生</td> <td>253名 (うち院外212名)</td> </tr> <tr> <td>H26.11.7</td> <td>緩和ケア勉強会 「食べる喜びを支える緩和ケアへの取り組み」 岩手県立総合医療センター 管理栄養士 室口 真理子 先生</td> <td>68名 (うち院外13名)</td> </tr> <tr> <td>H27.1.14</td> <td>緩和ケア勉強会 「中心部に寄り添う～緩和と実践～」 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏</td> <td>101名 (うち院外70名)</td> </tr> <tr> <td>H27.1.23</td> <td>「地域で支える緩和ケア」 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏</td> <td>96名 (うち院外82名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>○地域連携緩和ケア協議会を3回開催し、延べ57名(うち院外は延べ9名)が参加して症例検討を行った。</p>	実施日時	研修内容等	参加人数	H26.6.11	緩和ケア勉強会 「緩和医療における非特異的疼痛の管理」 第一三共株式会社 東北支店 斎藤 洋 氏	122名 (うち院外30名)	H26.6.16	感染対策研修会 「敗血症診療におけるターゲツトマナーゲジメント ～敗血症性DICの診断と治療～」 山形大学医学部附属病院 集中治療部 感染対策 中塚 正樹 先生	131名 (うち院外3名)	H26.7.11	感染対策研修会 「今、エビデンス以上の感染対策を！」 東北大学薬機センター 大橋病院 外 丸 勲 先生 堀 浩 也 先生	131名 (うち院外10名)	H26.9.10	緩和ケア勉強会 「がん療養と緩和ケア～オピオイドを中心～」 大日本住友製薬株式会社 製品企画部 担当者	47名 (うち院外4名)	H26.10.16	感染対策研修会 「MRSA感染の管理」 山形大学医学部附属病院 感染制御部 副部長 羽 谷 一 先生	156名 (うち院外24名)	H26.10.31	「精神障害と認知症」 米沢市立病院 精神科部長 渡辺 雅 子 先生	253名 (うち院外212名)	H26.11.7	緩和ケア勉強会 「食べる喜びを支える緩和ケアへの取り組み」 岩手県立総合医療センター 管理栄養士 室口 真理子 先生	68名 (うち院外13名)	H27.1.14	緩和ケア勉強会 「中心部に寄り添う～緩和と実践～」 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏	101名 (うち院外70名)	H27.1.23	「地域で支える緩和ケア」 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏	96名 (うち院外82名)	<p>◇地域の医療・介護従事者を含めた研修会等を開催したか。</p>	<p>判定 A ▽緩和ケア及び感染対策を中心に研修会を9回開催し、他の施設の医療・介護従事者延べ401名の参加があった。緩和ケアに係る実際の症例検討を行うなど、地域の医療水準の向上に努めた。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおりに</p>
実施日時	研修内容等	参加人数																																
H26.6.11	緩和ケア勉強会 「緩和医療における非特異的疼痛の管理」 第一三共株式会社 東北支店 斎藤 洋 氏	122名 (うち院外30名)																																
H26.6.16	感染対策研修会 「敗血症診療におけるターゲツトマナーゲジメント ～敗血症性DICの診断と治療～」 山形大学医学部附属病院 集中治療部 感染対策 中塚 正樹 先生	131名 (うち院外3名)																																
H26.7.11	感染対策研修会 「今、エビデンス以上の感染対策を！」 東北大学薬機センター 大橋病院 外 丸 勲 先生 堀 浩 也 先生	131名 (うち院外10名)																																
H26.9.10	緩和ケア勉強会 「がん療養と緩和ケア～オピオイドを中心～」 大日本住友製薬株式会社 製品企画部 担当者	47名 (うち院外4名)																																
H26.10.16	感染対策研修会 「MRSA感染の管理」 山形大学医学部附属病院 感染制御部 副部長 羽 谷 一 先生	156名 (うち院外24名)																																
H26.10.31	「精神障害と認知症」 米沢市立病院 精神科部長 渡辺 雅 子 先生	253名 (うち院外212名)																																
H26.11.7	緩和ケア勉強会 「食べる喜びを支える緩和ケアへの取り組み」 岩手県立総合医療センター 管理栄養士 室口 真理子 先生	68名 (うち院外13名)																																
H27.1.14	緩和ケア勉強会 「中心部に寄り添う～緩和と実践～」 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏	101名 (うち院外70名)																																
H27.1.23	「地域で支える緩和ケア」 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏	96名 (うち院外82名)																																
<p>⑦住民の意識の啓発</p>	<p>○地域住民を対象としたセミナー、病院広報紙などの発行を積極的に行い、住民の医療や健康に対する意識の啓発に努める。</p> <table border="1" data-bbox="517 837 938 917"> <thead> <tr> <th>実施日時</th> <th>事業内容等</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.11.8</td> <td>地域がん診療連携拠点病院 市民公開講座 「がん治療」</td> <td>80名</td> </tr> <tr> <td>酒田玉師殿</td> <td>放射線治療の効果や副作用、薬物治療、原簿に関すること 山形大学附属病院 放射線治療科 教授 榎本 隆二 先生</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>○患者、地域住民向け及び関係者向け広報誌「あきほ」の発行部数を2,500部から2,700部に増刷の上、年間4回発行し、住民等の医療や健康等に対する意識の啓発に努めた。</p>	実施日時	事業内容等	参加人数	H26.11.8	地域がん診療連携拠点病院 市民公開講座 「がん治療」	80名	酒田玉師殿	放射線治療の効果や副作用、薬物治療、原簿に関すること 山形大学附属病院 放射線治療科 教授 榎本 隆二 先生		<p>◇健康意識の向上のため、地域住民に対し、啓発活動又は情報発信を行ったか。</p>	<p>判定 A ▽地域がん診療拠点病院として、重粒子線による最新のがん治療を紹介するとともに、早期発見のための啓発活動を行った。 ▽病院広報紙「あきほ」を、1回あたり200部増刷し、健康や治療に関する情報の他、公的制度についても情報提供を行った。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおりに</p>																					
実施日時	事業内容等	参加人数																																
H26.11.8	地域がん診療連携拠点病院 市民公開講座 「がん治療」	80名																																
酒田玉師殿	放射線治療の効果や副作用、薬物治療、原簿に関すること 山形大学附属病院 放射線治療科 教授 榎本 隆二 先生																																	
<p>・他の機関が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等への講師派遣についても積極的に行う。</p>	<p>○他の機関等が行う地域の医療従事者や住民に対するセミナー等について、講師の派遣を積極的に行った。</p> <table border="1" data-bbox="517 1061 938 1189"> <thead> <tr> <th>実施日時</th> <th>事業内容等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26.10.4</td> <td>平成26年度 がん県民運動 日本がん学会 市民公開講座 「肝臓がんの最新治療」 東北公益 文科大学 「新しいがん治療」 日本海総合病院 消化器内科 部長 青木 敏 敬 氏 公益ホール 「がん患者の話を聴く」 日本海総合病院 消化器内科 部長 鈴木 隆 彦 氏</td> </tr> <tr> <td>H26.10.13</td> <td>がん治療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 鶴岡市立 コミュニケーション技術に関する研修及びワークショップ 三内病院 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏</td> </tr> </tbody> </table>	実施日時	事業内容等	H26.10.4	平成26年度 がん県民運動 日本がん学会 市民公開講座 「肝臓がんの最新治療」 東北公益 文科大学 「新しいがん治療」 日本海総合病院 消化器内科 部長 青木 敏 敬 氏 公益ホール 「がん患者の話を聴く」 日本海総合病院 消化器内科 部長 鈴木 隆 彦 氏	H26.10.13	がん治療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 鶴岡市立 コミュニケーション技術に関する研修及びワークショップ 三内病院 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏	<p>◇他の機関が行ったセミナー等へ講師を派遣したか。</p>	<p>判定 A ▽要請に応じて、地域住民向けの講演会及び県内のがん治療に携わる医師研修会に講師を派遣した。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおりに</p>																								
実施日時	事業内容等																																	
H26.10.4	平成26年度 がん県民運動 日本がん学会 市民公開講座 「肝臓がんの最新治療」 東北公益 文科大学 「新しいがん治療」 日本海総合病院 消化器内科 部長 青木 敏 敬 氏 公益ホール 「がん患者の話を聴く」 日本海総合病院 消化器内科 部長 鈴木 隆 彦 氏																																	
H26.10.13	がん治療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 鶴岡市立 コミュニケーション技術に関する研修及びワークショップ 三内病院 日本海総合病院 緩和科 部長 湯 谷 謙 氏																																	
<p>(3) 患者・住民サービスの一層の向上</p>	<p>○新たに患者満足度向上委員会を立ち上げ、患者満足度アンケートを実施して、患者ニーズの把握に努めた。(外来で1,233件、病棟で272件の回答があった。)</p>	<p>◇紹介する医療機関、患者の視座に立ち、待ち時間対策を検討したか。</p>	<p>判定 A ▽酒田地区医師会懇談会において、日本海総合病院の待ち時間改善について要望があった。日本海総合病院では業務改善委員会に諮り、紹介する際には必ず予約をするよう酒田地区医師会を通じて周知するとともに、院内にプロジェクトチームを立ち上げて、さらに改善策を検討することとした。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおりに</p>																														
<p>・日本海総合病院において、外来診療の待ち時間対策を検討する。</p>	<p>○待ち時間対策として、他の医療機関からの紹介患者の対応について検討を開始した。</p>	<p>◇紹介する医療機関、患者の視座に立ち、待ち時間対策を検討したか。</p>	<p>判定 A ▽酒田地区医師会懇談会において、日本海総合病院の待ち時間改善について要望があった。日本海総合病院では業務改善委員会に諮り、紹介する際には必ず予約をするよう酒田地区医師会を通じて周知するとともに、院内にプロジェクトチームを立ち上げて、さらに改善策を検討することとした。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおりに</p>																														
<p>・患者、利用者の意見・要望等を聞く投書箱を常設し、一層のサービス向上と業務改善に取組み、患者または住民本位のサービスの提供に努める。</p>	<p>○新たに患者満足度向上委員会を立ち上げ、患者満足度アンケートを実施して、患者ニーズの把握に努めた。(外来で1,233件、病棟で272件の回答があった。)</p>	<p>◇サービス向上のため、患者ニーズの把握を行ったか。</p>	<p>判定 A ▽日本海総合病院においてアンケート調査を行い、積極的に患者ニーズの把握に努めた。職員の対応、設備に関することなどニーズは多種多様であったが、できるものから早急に対応した。</p>	<p>判定 A 自己評定のとおりに</p>																														

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	自己評定	委員会評定及び意見等																
<p>・ホームページの充実による病院情報の発信力の強化を図る。</p> <p>・日本海総合病院において、一部の外来診察室ドアを引戸へ改修し、及び待合ホールの床を補修する。また、計画的に病室の天井、内壁、床の改修を行う。</p>	<p>○ホームページによる情報提供に加え、新たにSNS（フェイスブック、ツイッター）を利用した情報発信に取り組み、発信力の強化を図った。</p> <p>○設備などの改修・補修を行い、次のとおり院内環境の整備を図った。</p> <table border="1" data-bbox="510 256 945 347"> <thead> <tr> <th>箇所</th> <th>要 求 内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>外来待合ホール</td> <td>床材のはがれ等劣化が進んでいるため、張替えを実施した。</td> </tr> <tr> <td>1階西側改修工事</td> <td>既存棟の外来診察室の扉は押し扉であり、入り口部分が狭いため</td> </tr> <tr> <td>改修工事</td> <td>扉等が入りやすいう引戸に改修を行った。</td> </tr> <tr> <td>病室内壁改修工事</td> <td>既存棟の壁紙(重症室を含む。)78室の内装を改修した。</td> </tr> </tbody> </table>	箇所	要 求 内 容	外来待合ホール	床材のはがれ等劣化が進んでいるため、張替えを実施した。	1階西側改修工事	既存棟の外来診察室の扉は押し扉であり、入り口部分が狭いため	改修工事	扉等が入りやすいう引戸に改修を行った。	病室内壁改修工事	既存棟の壁紙(重症室を含む。)78室の内装を改修した。	<p>◇情報の発信力の強化を図ったか。</p> <p>◇患者等に配慮した環境整備を行ったか。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>▽SNSを活用し、様々な情報を迅速に発信する一方で、正確な情報を提供するための体制を整備し、発信力の強化を図った。</p> <p>A</p> <p>▽車椅子の患者に配慮するなど、診察室周辺環境の整備を行った。</p> <p>▽入院個室の内壁を改修し、療養環境の整備を行った。</p>	<p>判定</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p> <p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>						
箇所	要 求 内 容																			
外来待合ホール	床材のはがれ等劣化が進んでいるため、張替えを実施した。																			
1階西側改修工事	既存棟の外来診察室の扉は押し扉であり、入り口部分が狭いため																			
改修工事	扉等が入りやすいう引戸に改修を行った。																			
病室内壁改修工事	既存棟の壁紙(重症室を含む。)78室の内装を改修した。																			
<p>・平成20年度から実施した重症心身障がい児(者)短期入所事業について、日本海総合病院の病床を利用したレスパイト入院を継続して実施する。</p>	<p>○平成20年度から継続して重症心身障がい児(者)短期入所事業を行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 411 730 459"> <thead> <tr> <th colspan="3">【実績】延べ利用者数</th> </tr> <tr> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>28名</td> <td>14名</td> <td>21名</td> </tr> </tbody> </table>	【実績】延べ利用者数			H24	H25	H26	28名	14名	21名	<p>◇継続して短期入所事業を行い、障がい児(者)の家族の負担軽減を図ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽庄内地域で唯一の施設であり、継続して事業を行い、障がい児(者)を持つ家族の負担軽減を図った。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>							
【実績】延べ利用者数																				
H24	H25	H26																		
28名	14名	21名																		
<p>・酒田市からの受託事業である病児・病後児保育事業を、日本海総合病院院内保育所「あきほ保育園」(以下、「あきほ保育園」という。)において継続して行う。</p>	<p>○病児・病後児保育事業を酒田市から受託し、「あきほ保育園」において継続して当該事業を行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 523 875 571"> <thead> <tr> <th colspan="4">【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>304名</td> <td>233名</td> <td>291名</td> </tr> </tbody> </table>	【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数					H24	H25	H26	延べ利用者数	304名	233名	291名	<p>◇継続して病児・病後児事業を受託し、地域住民へのサービス提供を行ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽日曜日、祝日、年末年始休業を除き、通年で事業を実施した。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>				
【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数																				
	H24	H25	H26																	
延べ利用者数	304名	233名	291名																	
<p>・親しみと信頼のある地域密着型の病院づくりをめざし、地域交流事業として病院祭「あきほ祭り」及び即売施設「あきほ市」を開催する。</p>	<p>○地域交流事業として病院祭「あきほ祭り」を開催し、酒田地区医師会と共催でバザーを開催するなど、内容をより充実させた。また、展示即売施設「あきほ市」については、新たに販売ブースを2棟設置し、常設即売施設として運営を行った。</p>	<p>◇地域密着型で親しみがあり、信頼される病院づくりに取組んだか。</p>	<p>A</p> <p>▽日本海総合病院で地域交流事業を実施し、患者やその家族、来院者、出店者等地域の多くの方々にとって親しみと信頼のある病院づくりに取組んだ。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>																
<p>(4) 法令等の遵守と情報公開の推進</p>																				
<p>・基本理念、倫理綱領及び病院運営方針の周知を図る。</p>	<p>○平成24年度に定めた基本理念等を、職員研修の場で周知を図るとともに、病院機構及び2病院のホームページを活用し、広く住民にもPRした。</p>	<p>◇基本理念等の周知を行ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽「医療人」の育成及び患者や地域住民との信頼関係の構築のため、職員研修で周知を図るとともに、ホームページやパンフレット等で内外に広くPRした。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>																
<p>・医療情報のセキュリティ向上のため職員、委託職員を対象に院内研修を実施する。また、「ちようかいネット」を利用している医療機関等に対しても研修を実施する。</p>	<p>○セキュリティポリシー概略版の配布と情報セキュリティチェックシートによる自己評価を行った。対象者1,405名のうち、910名が自己評価を行った。</p> <p>○「ちようかいネット」を利用している医療機関等に対し、情報セキュリティ研修を行った。延べ5回開催し、対象施設99施設のうち、52施設99名が受講した。</p>	<p>◇医療情報のセキュリティ向上のため、全職員及び委託職員に周知を図ったか。</p> <p>○「ちようかいネット」を利用する医療機関等に対し研修を実施したか。</p>	<p>B</p> <p>▽平成24年度は研修会で、平成25年度はe-ラーニング方式で、平成26年度はセキュリティポリシーの配布と自己評価によって、情報セキュリティの向上に努めてきた。対象者のうち、自己評価を行い理解度を測定した者は約2/3であった。</p> <p>▽医療情報又は個人情報取扱いにおける危険性を、利用している医師等から再認識していただいた。しかし、対象施設のうち受講した施設は約半分であった。</p>	<p>C</p> <p>受講率が対象者の約2/3であり、計画を下回っている。情報セキュリティは重要であることから、その向上対策に努められたい。</p>																
<p>・インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ・レセプト等医療情報の開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行う。</p>	<p>○インフォームド・コンセントを徹底するほか、カルテ等医療情報の情報開示については、山形県情報公開条例及び個人情報保護条例の適用のもとに、県の機関に準じて行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 1098 815 1161"> <thead> <tr> <th colspan="4">【実績】診療情報提供申出件数</th> </tr> <tr> <th></th> <th>H24</th> <th>H25</th> <th>H26</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>日本海総合病院</td> <td>49件</td> <td>70件</td> <td>64件</td> </tr> <tr> <td>酒田医療センター</td> <td>7件</td> <td>2件</td> <td>2件</td> </tr> </tbody> </table>	【実績】診療情報提供申出件数					H24	H25	H26	日本海総合病院	49件	70件	64件	酒田医療センター	7件	2件	2件	<p>◇情報開示請求等に、適切に対応したか。</p>	<p>A</p> <p>▽県の機関に準じて、適切に対応した。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>
【実績】診療情報提供申出件数																				
	H24	H25	H26																	
日本海総合病院	49件	70件	64件																	
酒田医療センター	7件	2件	2件																	
<p>(5) 医療安全対策の充実・強化</p>																				
<p>・インシデントレポートの収集、分析及びリスク回避の方策について検討し、院内研修会や定期的な院内広報の発行などにより周知し、患者安全管理体制の推進・強化に努める。</p>	<p>○患者安全管理体制の推進・強化を図るため、医療安全対策委員会を中心に次のような活動を行った。</p> <table border="1" data-bbox="510 1262 945 1385"> <thead> <tr> <th>実施日時</th> <th>研修内容等</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H24.7.22</td> <td>「医師が語る事例から学ぶリスクマネジメント」 日本海総合病院 東京海上日動メディカルサービス株式会社 講堂</td> <td>258名</td> </tr> <tr> <td>H26.11.19</td> <td>「各部門の取り組み発表」 日本海総合病院 研修室、看護部、薬剤部、検査部、放射線部、ME室 講堂</td> <td>142名</td> </tr> </tbody> </table> <p>○医療安全管理者を中心に、各部署の医療安全推進者(リスクマネージャー)と連携し、安全・安心な医療を提供するために情報の共有及び周知徹底を図り、医療安全対策の一層の向上に努めた。</p>	実施日時	研修内容等	参加人数	H24.7.22	「医師が語る事例から学ぶリスクマネジメント」 日本海総合病院 東京海上日動メディカルサービス株式会社 講堂	258名	H26.11.19	「各部門の取り組み発表」 日本海総合病院 研修室、看護部、薬剤部、検査部、放射線部、ME室 講堂	142名	<p>◇医療安全対策委員会を中心とした活動により、管理体制の推進と強化を図ったか。</p> <p>◇医療安全管理者を中心に、リスクマネージャーと連携し、医療安全対策の一層の向上を図ったか。</p>	<p>A</p> <p>▽研修会や院内広報の発行など、積極的な情報発信を行い、医療安全の推進及び強化を図った。</p> <p>▽医療安全管理者を中心に、リスクマネージャーとの連携又はリスクマネージャー同士の連携により、医療安全対策の一層の向上を図った。</p>	<p>A</p> <p>自己評定のとおり</p>							
実施日時	研修内容等	参加人数																		
H24.7.22	「医師が語る事例から学ぶリスクマネジメント」 日本海総合病院 東京海上日動メディカルサービス株式会社 講堂	258名																		
H26.11.19	「各部門の取り組み発表」 日本海総合病院 研修室、看護部、薬剤部、検査部、放射線部、ME室 講堂	142名																		

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	判定	委員会評定及び意見等																																			
2 人員配置の弾力的運用																																									
(1) 負担軽減																																									
・医師の負担軽減を図るため、医師事務作業補助者を活用する。	○医師の負担軽減を図るため、引続き各病棟などに医療クラークを配置した。 【実績】医療クラークの配置数 <table border="1"> <tr> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>59名</td> <td>54名</td> <td>52名</td> </tr> </table>	H24	H25	H26	59名	54名	52名	◇引続き医師事務作業補助者を配置したか。	A	▽医師事務作業補助者を効果的に配置して、引続き医師が本来の業務に専念できるよう負担軽減を図った。	A	自己評定のとおり																													
H24	H25	H26																																							
59名	54名	52名																																							
・看護師の負担軽減を図るため、看護補助者及び事務補助者を活用する。	○看護師の負担軽減を図るため、看護補助者及び事務補助者を配置した。 【実績】補助者の配置状況 <table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="2">H24</td> <td colspan="2">H25</td> <td colspan="2">H26</td> </tr> <tr> <td></td> <td>看護補助者</td> <td>事務補助者</td> <td>看護補助者</td> <td>事務補助者</td> <td>看護補助者</td> <td>事務補助者</td> </tr> <tr> <td>病棟</td> <td>66名</td> <td>14名</td> <td>67名</td> <td>16名</td> <td>64名</td> <td>12名</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>18名</td> <td>8名</td> <td>20名</td> <td>11名</td> <td>22名</td> <td>18名</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>84名</td> <td>22名</td> <td>87名</td> <td>27名</td> <td>86名</td> <td>30名</td> </tr> </table>		H24		H25		H26			看護補助者	事務補助者	看護補助者	事務補助者	看護補助者	事務補助者	病棟	66名	14名	67名	16名	64名	12名	その他	18名	8名	20名	11名	22名	18名	合計	84名	22名	87名	27名	86名	30名	◇引続き看護補助者及び事務補助者を配置したか。	A	▽看護補助者及び事務補助者を増員して、看護師が本来の業務に専念できるよう負担軽減を図った。	A	自己評定のとおり
	H24		H25		H26																																				
	看護補助者	事務補助者	看護補助者	事務補助者	看護補助者	事務補助者																																			
病棟	66名	14名	67名	16名	64名	12名																																			
その他	18名	8名	20名	11名	22名	18名																																			
合計	84名	22名	87名	27名	86名	30名																																			
(2) 障がい者雇用																																									
・障害者雇用促進法に基づき、雇用量2.3%以上の確保に努め、障がい者の雇用促進及び職業安定に寄与し、その有効活用を行う。	○障害者雇用促進法に基づき、障がい者の雇用促進及び有効活用を努めた。 【実績】雇用量 <table border="1"> <tr> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>0.65%</td> <td>1.47%</td> </tr> </table>	H25	H26	0.65%	1.47%	◇雇用の確保に努めたか。	B	▽ハローワークを通して臨時職員を募集し、平成25年度と比較して2倍以上の雇用を確保した。	A	昨年度と比較し、倍以上の雇用を確保したことはA評価に値する。																															
H25	H26																																								
0.65%	1.47%																																								
(3) スタッフ職員制度																																									
・優秀な人材の確保、勤労意欲の向上及び雇用の安定を図るため、正職員と臨時職員の中間に位置するスタッフ職員制度を創設し、希望する臨時職員の中から試験により登用する。	○雇用の安定と人材の確保を図ることを目的として、臨時職員の中で業務遂行能力が高く、長期就業意欲を有する者を、期限の定めのない雇用に転換する「スタッフ職員制度」を創設し、47名を登用した。	◇雇用の安定と人材確保が図られたか。	S	▽当法人で2年以上の臨時職員としての経験があり、希望する者を対象として、平成25年度中に試験を実施した。平成26年4月1日付けで47名を採用し、雇用の安定を図るとともに、人材を確保した。	S	自己評定のとおり																																			
3 施設整備及び医療機器等の整備計画																																									
<table border="1"> <tr> <td colspan="3">(単位:百万円)</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>予定額</td> <td>財源</td> </tr> <tr> <td>資本支出</td> <td></td> <td>設立団体からの長期借入金等</td> </tr> <tr> <td>建設改良費</td> <td>939</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療機器整備</td> <td>709</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他(改修工事等)</td> <td>230</td> <td></td> </tr> </table>							(単位:百万円)			区分	予定額	財源	資本支出		設立団体からの長期借入金等	建設改良費	939		医療機器整備	709		その他(改修工事等)	230																		
(単位:百万円)																																									
区分	予定額	財源																																							
資本支出		設立団体からの長期借入金等																																							
建設改良費	939																																								
医療機器整備	709																																								
その他(改修工事等)	230																																								
(1) 高度医療機器の計画的な更新・整備																																									
・高度専門医療等の充実のため、次のとおり高度医療機器の更新・整備を行う。 (単位:百万円)	○高度専門医療等の充実のため、高度医療機器の更新・整備を行った。	◇費用対効果を含め総合的に判断し、高度医療機器等の更新・整備を行ったか。	A	▽高度医療機器の更新等にあたっては、起債を活用し、計画的に行った。 ▽注射薬自動払出装の導入にあたっては、指導件数の増加、職員の負担軽減等の効果を含めて検討し、自己資金(前中期目標期間繰越積立金)で整備した。	A	自己評定のとおり																																			
<table border="1"> <tr> <td>病院名</td> <td>事業費</td> <td>医療機器の名称(財源)</td> </tr> <tr> <td>日本海総合病院</td> <td>550</td> <td>MR1、更新機器等(長期借入金)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>159</td> <td>注射薬自動払出装等(繰越積立金を含む自己資金)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>709</td> <td></td> </tr> </table>	病院名	事業費	医療機器の名称(財源)	日本海総合病院	550	MR1、更新機器等(長期借入金)		159	注射薬自動払出装等(繰越積立金を含む自己資金)	合計	709		<table border="1"> <tr> <td colspan="3">(単位:百万円)</td> </tr> <tr> <td>区分</td> <td>執行額</td> <td>財源</td> </tr> <tr> <td>資本支出</td> <td></td> <td>設立団体からの長期借入金、出資(出資債)及び自己資金</td> </tr> <tr> <td>建設改良費</td> <td>772</td> <td></td> </tr> <tr> <td>医療機器整備</td> <td>650</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他(改修工事等)</td> <td>122</td> <td></td> </tr> </table>	(単位:百万円)			区分	執行額	財源	資本支出		設立団体からの長期借入金、出資(出資債)及び自己資金	建設改良費	772		医療機器整備	650		その他(改修工事等)	122											
病院名	事業費	医療機器の名称(財源)																																							
日本海総合病院	550	MR1、更新機器等(長期借入金)																																							
	159	注射薬自動払出装等(繰越積立金を含む自己資金)																																							
合計	709																																								
(単位:百万円)																																									
区分	執行額	財源																																							
資本支出		設立団体からの長期借入金、出資(出資債)及び自己資金																																							
建設改良費	772																																								
医療機器整備	650																																								
その他(改修工事等)	122																																								
・高度医療機器の更新・整備に当たっては、医療需要、医療技術の進展などを総合的に判断して進めるものとする。 ・医療安全、薬物療法の質の向上及び職員の負担軽減を図るため、注射薬自動払出装を導入する。	○高度専門医療等の充実のため、平成26年度は次のとおり高度医療機器の更新・整備を行った。 <table border="1"> <tr> <td>診療科</td> <td>機器名</td> <td>備考</td> </tr> <tr> <td>放射線科</td> <td>1.5テスラ超伝導MRI装置</td> <td>更新</td> </tr> <tr> <td>薬剤部</td> <td>注射薬自動払出装</td> <td>新設</td> </tr> </table>	診療科	機器名	備考	放射線科	1.5テスラ超伝導MRI装置	更新	薬剤部	注射薬自動払出装	新設																															
診療科	機器名	備考																																							
放射線科	1.5テスラ超伝導MRI装置	更新																																							
薬剤部	注射薬自動払出装	新設																																							
(2) 建物総合診断																																									
・日本海総合病院は、建築から20年が経過していることから、将来の大規模修繕を見据え、建物総合診断を行う。	○今後、30年にわたり現在の建物を使用することを前提にして、将来の大規模修繕を見据えた建物総合診断を行った。	◇建物総合診断を実施したか。	A	▽日本海総合病院の本館をはじめ、医師用宿舎、看護師用宿舎等建築物全体について建物総合診断を実施し、緊急度が高いと評価された項目を中心に、さらに院内で修繕の優先度を検討した。	A	自己評定のとおり																																			

平成26年度・年度計画				平成26年度・年度実績				評価の視点		判定	自己評定	判定	委員会評定及び意見等																																																																																																																					
4 患者数の見込みと予算・収支計画・資金計画																																																																																																																																		
(1) 患者数の見込み				(1) 患者数																																																																																																																														
(単位:床、人、%)				(単位:床、人、%)																																																																																																																														
平成26年度				平成25年度 (当初予算ベース)																																																																																																																														
日本酒 酒田 合計				日本酒 酒田 合計																																																																																																																														
入院	病床数	646	114	760	646	114	760																																																																																																																											
	1日当たり	528.2	99.8	628	545	67.9	612.9																																																																																																																											
	病床利用率	81.8	87.6	84.4	86.0																																																																																																																													
外来	1日当たり	1,373.2	3.5	1,376.7	1,380.4	3.2	1,363.6																																																																																																																											
※()内は、運用病床数及びその病床利用率である。																																																																																																																																		
				<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">区分</th> <th colspan="3">日本酒総合病院</th> <th colspan="3">酒田医療センター</th> <th colspan="3">計</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>延入院患者数(A)</td> <td>192,661</td> <td>185,220</td> <td>△7,268</td> <td>24,986</td> <td>34,237</td> <td>9,241</td> <td>217,637</td> <td>219,510</td> <td>1,873</td> </tr> <tr> <td>英人院患者数(A)</td> <td>16,735</td> <td>16,295</td> <td>△440</td> <td>477</td> <td>625</td> <td>148</td> <td>17,212</td> <td>16,920</td> <td>△292</td> </tr> <tr> <td>入院1日(人)</td> <td>527.6</td> <td>507.6</td> <td>△20.2</td> <td>68.6</td> <td>99.8</td> <td>25.2</td> <td>596.2</td> <td>607.4</td> <td>51.1</td> </tr> <tr> <td>病床利用率(%)</td> <td>81.7</td> <td>78.6</td> <td>△3.1</td> <td>88.7</td> <td>82.3</td> <td>△4.4</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>病床前転率(%)</td> <td>264.5</td> <td>266.8</td> <td>2.3</td> <td>58.6</td> <td>53.9</td> <td>△4.7</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>平均在院日数(日)</td> <td>11.5</td> <td>11.4</td> <td>△0.1</td> <td>51.9</td> <td>56.4</td> <td>4.5</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>延外来患者数(A)</td> <td>337,804</td> <td>333,248</td> <td>△4,555</td> <td>731</td> <td>828</td> <td>97</td> <td>338,625</td> <td>334,077</td> <td>△4,548</td> </tr> <tr> <td>延外来患者数(A)</td> <td>32,017</td> <td>29,807</td> <td>△2,210</td> <td>37</td> <td>45</td> <td>8</td> <td>32,054</td> <td>29,850</td> <td>△2,204</td> </tr> <tr> <td>外来1日(人)</td> <td>1,384.90</td> <td>1,366.80</td> <td>△18.1</td> <td>3</td> <td>3.4</td> <td>0.4</td> <td>1,387.90</td> <td>1,369.20</td> <td>△18.7</td> </tr> <tr> <td>病床数(床)</td> <td>646</td> <td>646</td> <td>0</td> <td>79</td> <td>114</td> <td>35</td> <td>725</td> <td>760</td> <td>35</td> </tr> </tbody> </table>				区分	日本酒総合病院			酒田医療センター			計			H25	H26	増減	H25	H26	増減	H25	H26	増減	延入院患者数(A)	192,661	185,220	△7,268	24,986	34,237	9,241	217,637	219,510	1,873	英人院患者数(A)	16,735	16,295	△440	477	625	148	17,212	16,920	△292	入院1日(人)	527.6	507.6	△20.2	68.6	99.8	25.2	596.2	607.4	51.1	病床利用率(%)	81.7	78.6	△3.1	88.7	82.3	△4.4	—	—	—	病床前転率(%)	264.5	266.8	2.3	58.6	53.9	△4.7	—	—	—	平均在院日数(日)	11.5	11.4	△0.1	51.9	56.4	4.5	—	—	—	延外来患者数(A)	337,804	333,248	△4,555	731	828	97	338,625	334,077	△4,548	延外来患者数(A)	32,017	29,807	△2,210	37	45	8	32,054	29,850	△2,204	外来1日(人)	1,384.90	1,366.80	△18.1	3	3.4	0.4	1,387.90	1,369.20	△18.7	病床数(床)	646	646	0	79	114	35	725	760	35				
区分	日本酒総合病院			酒田医療センター			計																																																																																																																											
	H25	H26	増減	H25	H26	増減	H25	H26	増減																																																																																																																									
延入院患者数(A)	192,661	185,220	△7,268	24,986	34,237	9,241	217,637	219,510	1,873																																																																																																																									
英人院患者数(A)	16,735	16,295	△440	477	625	148	17,212	16,920	△292																																																																																																																									
入院1日(人)	527.6	507.6	△20.2	68.6	99.8	25.2	596.2	607.4	51.1																																																																																																																									
病床利用率(%)	81.7	78.6	△3.1	88.7	82.3	△4.4	—	—	—																																																																																																																									
病床前転率(%)	264.5	266.8	2.3	58.6	53.9	△4.7	—	—	—																																																																																																																									
平均在院日数(日)	11.5	11.4	△0.1	51.9	56.4	4.5	—	—	—																																																																																																																									
延外来患者数(A)	337,804	333,248	△4,555	731	828	97	338,625	334,077	△4,548																																																																																																																									
延外来患者数(A)	32,017	29,807	△2,210	37	45	8	32,054	29,850	△2,204																																																																																																																									
外来1日(人)	1,384.90	1,366.80	△18.1	3	3.4	0.4	1,387.90	1,369.20	△18.7																																																																																																																									
病床数(床)	646	646	0	79	114	35	725	760	35																																																																																																																									
				<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="7">(単位:円)</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">日本酒総合病院</th> <th rowspan="2">H25</th> <th rowspan="2">H26</th> <th rowspan="2">増減</th> <th colspan="3">酒田医療センター</th> </tr> <tr> <th>H25</th> <th>H26</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入院</td> <td>59,510</td> <td>61,012</td> <td>1,502</td> <td>入院</td> <td>22,982</td> <td>24,101</td> <td>1,119</td> </tr> <tr> <td>外来</td> <td>12,447</td> <td>13,055</td> <td>608</td> <td>外来</td> <td>3,448</td> <td>3,067</td> <td>△381</td> </tr> </tbody> </table>				(単位:円)							日本酒総合病院	H25	H26	増減	酒田医療センター			H25	H26	増減	入院	59,510	61,012	1,502	入院	22,982	24,101	1,119	外来	12,447	13,055	608	外来	3,448	3,067	△381																																																																																										
(単位:円)																																																																																																																																		
日本酒総合病院	H25	H26	増減	酒田医療センター																																																																																																																														
				H25	H26	増減																																																																																																																												
入院	59,510	61,012	1,502	入院	22,982	24,101	1,119																																																																																																																											
外来	12,447	13,055	608	外来	3,448	3,067	△381																																																																																																																											
(2) 予算(平成26年度)				(2) 予算及び決算																																																																																																																														
(単位:百万円)				(単位:百万円)																																																																																																																														
区分				区分																																																																																																																														
日本酒 酒田 合計				日本酒 酒田 合計																																																																																																																														
収入	19,459	1,064	20,523	収入	19,685	19,230	△455																																																																																																																											
営業収益	16,777	913	17,690	営業費用	16,576	16,271	△305																																																																																																																											
医療収益	16,192	895	17,087	医療費用	16,406	16,100	△306																																																																																																																											
運営費負担金	585	18	603	給与費	8,703	8,757	54																																																																																																																											
営業外収益	967	84	1,051	材料費	4,518	4,425	△120																																																																																																																											
運営費負担金等	819	76	895	経費	2,727	332	3,059																																																																																																																											
その他	148	8	156	研究研修費	92	7	99																																																																																																																											
臨時利益	2	0	2	一般管理費	170	0	170																																																																																																																											
資本収入	1,713	87	1,780	営業外費用	397	385	△12																																																																																																																											
運営費負担金	1,008	67	1,075	資本支出	2,711	2,543	△168																																																																																																																											
長期借入金	678	0	678	建設改良費	939	772	△167																																																																																																																											
その他(補助金等)	27	0	27	長期借入金返還金	1,766	1,767	1																																																																																																																											
支出	18,548	1,137	19,685	奨学金貸付	6	5	△1																																																																																																																											
営業費用	15,562	1,014	16,576	その他の費用	1	30	29																																																																																																																											
医療費用	15,392	1,014	16,406																																																																																																																															
給与費	8,057	646	8,703																																																																																																																															
材料費	4,518	29	4,545																																																																																																																															
経費	2,727	332	3,059																																																																																																																															
研究研修費	92	7	99																																																																																																																															
一般管理費	170	0	170																																																																																																																															
営業外費用	380	17	397																																																																																																																															
臨時損失	0	1	1																																																																																																																															
資本支出	2,606	105	2,711																																																																																																																															
建設改良費	939	0	939																																																																																																																															
長期借入金返還金	1,661	105	1,766																																																																																																																															
奨学金貸付	6	0	6																																																																																																																															

◇営業収支比率及び経常収支比率が100%以上を達成し、かつ、平成21年度における全国の黒字病院の平均値である人件費比率49.2%、材料費比率27.6%以下を達成することができた。

S ▽営業収支比率101.7%、経常収支比率102.6%、人件費比率48.7%、材料費比率23.1%で、目標を達成することができた。
▽法人全体で、4億5千3百万円の純利益を計上し、平成20年度の統合再編以来、7期連続して純利益を計上することができた。

S 自己評定のとおりなお、長期的には人口減少にともない、患者数も減少することから、医療収益も伸びないと考えられるので、人件費の増加には十分注意されたい。

(注1) 建設改良費及び長期借入金等元金償還金に充当される運営費負担金等については、資本助成のための運営費負担金等とする。(以下、同じ)

※項目別に増減処理をしているため、合計額が一致しない項目がある。

平成26年度・年度計画				平成26年度・年度実績				評価の視点		自己評定		委員会評定及び意見等	
(3) 収支計画 (平成26年度)				(4) 収支計画				判定		判定			
(単位: 百万円)				(単位: 百万円)									
区分	日本海	酒田	合計	区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算-予算)						
(3) 収支計画 (平成26年度)				(4) 収支計画									
(単位: 百万円)				(単位: 百万円)									
収入	17,724	996	18,720	収入	19,720	19,795	75						
営業収益	16,762	913	17,675	営業収益	17,675	17,652	△23						
医業収益	16,161	894	17,055	医業収益	17,055	17,039	△16						
運賃費負担金収益	585	18	603	運賃費負担金収益	603	595	△8						
資材等運賃費負担金戻入	16	1	17	資材等運賃費負担金戻入	17	18	1						
営業外収益	960	83	1,043	営業外収益	1,043	1,131	88						
運賃費負担金収益	819	76	895	運賃費負担金収益	895	946	51						
その他医業収益	141	7	148	その他医業収益	148	185	37						
臨時利益	2	0	2	その他の収入	2	12	10						
支出	17,531	1,180	18,711	支出	18,711	18,342	△369						
営業費用	16,557	1,137	17,694	営業費用	17,694	17,358	△336						
医業費用	16,398	1,137	17,535	医業費用	17,535	17,198	△337						
一般管理費	159	0	159	一般管理費	159	160	1						
営業外費用	963	41	1,004	営業外費用	1,004	944	△60						
臨時損失	11	2	13	その他の費用	13	40	27						
純利益	193	▲184	9	純利益	81	453	444						
目的積立金取崩額	0	0	0										
総利益	193	▲184	9										
(4) 資金計画 (平成26年度)				(5) 資金計画									
(単位: 百万円)				(単位: 百万円)									
区分	日本海	酒田	合計	区分	予算額 (当初)	決算額	差額 (決算-予算)						
資金収入	38,780	2,599	41,379	資金収入	41,379	37,969	△3,410						
業務活動による収入	17,758	1,002	18,760	業務活動による収入	18,760	18,542	△218						
診療業務による収入	16,300	909	17,200	診療業務による収入	17,200	16,801	△399						
運賃費負担金による収入	1,404	94	1,498	運賃費負担金による収入	1,498	1,541	43						
補助金等収入	34	0	34	補助金等収入	34	68	34						
その他の業務活動による収入	20	8	28	その他の業務活動による収入	28	132	104						
投資活動による収入	12,527	700	13,227	投資活動による収入	13,227	13,405	178						
補助金等収入	27	0	27	補助金等収入	27	5	△22						
有価証券の売却による収入	12,500	700	13,200	有価証券の売却による収入	13,200	11,900	△1,300						
その他の投資活動による収入	0	0	0	定期預金の払出による収入	—	1,500	1,500						
財務活動による収入	1,686	87	1,753	その他の投資活動による収入	0	0	0						
長期借入による収入	678	0	678	財務活動による収入	1,753	1,702	△51						
借入金による収入	1,008	87	1,075	長期借入による収入	678	627	△51						
その他の財務活動による収入	0	0	0	金融出資の受入による収入	1,075	1,075	0						
前年度からの繰越金	6,809	830	7,639	前年度からの繰越金	7,639	4,320	△3,319						
資金支出	30,547	1,809	32,356	資金支出	32,356	34,430	2,074						
業務活動による支出	15,539	1,004	16,543	業務活動による支出	16,543	16,206	△337						
給与費支出	8,185	646	8,811	給与費支出	8,811	8,771	△40						
材料費支出	4,505	2	4,507	材料費支出	4,507	4,332	△175						
その他の業務活動による支出	2,849	356	3,205	その他の業務活動による支出	3,205	3,103	△102						
投資活動による支出	12,945	700	13,645	投資活動による支出	13,645	16,456	2,811						
有形固定資産の取得による支出	939	0	939	有形固定資産の取得による支出	939	943	4						
有価証券の取得による支出	12,000	700	12,700	有価証券の取得による支出	12,700	11,000	△1,700						
現金の貸付による支出	8	0	8	定期預金の預入による支出	—	4,500	4,500						
その他の投資活動による支出	0	0	0	その他の投資活動による支出	6	13	7						
財務活動による支出	1,663	105	1,768	財務活動による支出	1,768	1,768	0						
長期借入の返済による支出	559	20	579	長期借入の返済による支出	579	580	1						
移行前地方債償還債務等の償還による支出	1,102	85	1,187	移行前地方債償還債務等の償還による支出	1,187	1,187	0						
その他の財務活動による支出	2	0	2	その他の財務活動による支出	2	1	△1						
翌年度への繰越金	8,233	790	9,023	翌年度への繰越金	9,023	3,539	△5,484						

地方独立行政法人山形県・酒田市病院機構 項目別評価シート

平成26年度・年度計画	平成26年度・年度実績	評価の視点	判定	自己評定	判定	委員会評定及び意見等																				
5 その他業務運営に関する事項																										
(1) 就労環境の整備																										
・「あきほ保育園」は、通年で24時間保育を行う。	○「あきほ保育園」では、年末・年始の休所日を除き、24時間保育を実施した。	◇24時間保育の実施など、職員の就労環境の向上に取組んだか。	A	▽年末・年始の休所日を除き、24時間保育を実施し、職員の就労環境向上に取組んだ。	A	自己評定のとおり																				
・「あきほ保育園」は病児・病後児保育を継続し、職員の子育て支援を行う。	○病児・病後児保育事業を引続き酒田市から受託し、当該事業を活用し職員の子育て支援を行った。 【実績】病児・病後児保育事業延べ利用者数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数(再掲)</td> <td>304名</td> <td>233名</td> <td>291名</td> </tr> <tr> <td>(うち職員利用者数)</td> <td>(85名)</td> <td>(104名)</td> <td>(105名)</td> </tr> </table>		H24	H25	H26	延べ利用者数(再掲)	304名	233名	291名	(うち職員利用者数)	(85名)	(104名)	(105名)	◇職員の利用者数が増加したか。	A	▽就労環境の向上を図るため、病児・病後児保育を継続して実施した。平成25年度と比較して1名の増加だったが、引き続き100名を超える利用があった。	A	自己評定のとおり								
	H24	H25	H26																							
延べ利用者数(再掲)	304名	233名	291名																							
(うち職員利用者数)	(85名)	(104名)	(105名)																							
(2) 人間ドック・検診における連携																										
・公益財団法人やまがた健康推進機構と連携し、日本海総合病院において「人間ドック（PET検診含む）」の導入を図る。	○日本海総合病院では、酒田市が実施した「内視鏡ドック（PET検診含む）」のうち上・下部内視鏡、胸部CT及びPET/CTを継続して担った。 【実績】内視鏡ドックの実績 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td>上部内視鏡</td> <td>138件</td> <td>143件</td> <td>142件</td> </tr> <tr> <td>下部内視鏡</td> <td>138件</td> <td>143件</td> <td>142件</td> </tr> <tr> <td>胸部CT</td> <td>139件</td> <td>143件</td> <td>142件</td> </tr> <tr> <td>PET/CT(再掲)</td> <td>-</td> <td>105件</td> <td>49件</td> </tr> </table>		H24	H25	H26	上部内視鏡	138件	143件	142件	下部内視鏡	138件	143件	142件	胸部CT	139件	143件	142件	PET/CT(再掲)	-	105件	49件	◇公益財団法人やまがた健康推進機構と連携し、「内視鏡ドック（PET検診含む）」を実施したか。	B	▽公益財団法人やまがた健康推進機構と連携し、「内視鏡ドック（PET検診含む）」を実施した。PET/CT検診は申込み件数が減少したものの、上・下部内視鏡及び胸部CTは平成25年度とほぼ同じ件数を実施した。	B	自己評定のとおり
	H24	H25	H26																							
上部内視鏡	138件	143件	142件																							
下部内視鏡	138件	143件	142件																							
胸部CT	139件	143件	142件																							
PET/CT(再掲)	-	105件	49件																							
・酒田地区医師会と連携し、地域の検診体制の強化を図る。	○酒田地区医師会及び公益財団法人やまがた健康推進機構と役割分担を行いながら、連携して地域住民の検診を行った。	◇酒田地区医師会及び公益財団法人やまがた健康推進機構と役割分担、連携して検診を行ったか。	A	▽酒田地区医師会及び公益財団法人やまがた健康推進機構を主体として、地域の検診体制の確立を図ってきた。日本海総合病院では、主に乳がん検診、子宮がん検診、酒田市の「内視鏡ドック」及び二次検診を担当している。	A	自己評定のとおり																				
(3) 地球環境にやさしい病院づくり																										
・日本海総合病院において、既存棟の病室の蛍光灯を計画的にLED照明に交換する。	○日本海総合病院の手術部門及び人工透析部門を中心に、蛍光灯828本をLED照明に交換した。	◇継続して、LED照明への交換を推進したか。	A	▽これまでに既存棟の蛍光灯の3分の2を、LED照明に交換した。CO2排出削減など、地球環境に配慮している。	A	自己評定のとおり																				
(4) 酒田市飛鳥診療所への支援																										
・日本海総合病院は、救急患者の対応等において飛鳥診療所を支援する。	○日本海総合病院は、飛鳥診療所の救急患者対応を支援し、3名の患者をドクターヘリで受入れた。 ○飛鳥診療所の通院患者について、引続き検体検査を受託した。 【実績】検体検査受託件数 <table border="1"> <tr> <td></td> <td>H24</td> <td>H25</td> <td>H26</td> </tr> <tr> <td></td> <td>499件</td> <td>217件</td> <td>36件</td> </tr> </table>		H24	H25	H26		499件	217件	36件	◇救急患者が発生したとき、連携して対応できたか。 ◇検体検査を受託し、支援を継続したか。	S	▽日本海総合病院救命救急センターと酒田市飛鳥診療所、ドクターヘリとの連携により、スムーズに救急患者の対応を行うことができた。 ▽継続して検体検査を受託した。	S	自己評定のとおり												
	H24	H25	H26																							
	499件	217件	36件																							

年度別実績評価状況一覧表

判定基準	第1期中期目標期間								第2期中期目標期間					
	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
	自己判定	判定	自己判定	判定	自己判定	判定	自己判定	判定	自己判定	判定	自己判定	判定	自己判定	判定
S	0	0	0	0	0	2	7	7	9	11	15	15	17	16
A	15	15	20	20	23	24	44	44	55	56	61	62	63	66
B	24	24	25	26	22	19	1	1	7	4	4	3	5	2
C	3	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
D	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
項目数合計	42		47		45		52		71		80		85	